

SHARP

プロジェクター

ViewLight[®]

形名 **XP-X171Q-B/XP-X141Q-B**

取扱説明書

HDMI[®]

CHDBT[™]
ASE

D[™]

お買いあげいただき、まことにありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

● ご使用前に「安全にお使いいただくために」(4 ページ)を必ずお読みください。

もくじ

はじめに	3
安全にお使いいただくために	4
本書の表記について	27

1. 製品概要、添付品、名称を確認する 28

1-1. 特長	28
1-2. 添付品の確認	30
1-3. 本体各部の名称	31
1-4. リモコン各部の名称	38

2. 映像を投写する（基本操作） 44

2-1. 映像を投写する流れ	44
2-2. コンピューターと接続する／電源コードを接続する	45
2-3. 本機の電源を入れる	47
2-4. 入力信号を選択する	49
2-5. 投写画面の位置と大きさを調整する	50
2-6. 本機の電源を切る	57
2-7. あとかたづけ	58

3. 付 録 59

3-1. 仕 様	59
3-2. 故障かな？と思ったら	62
3-3. インジケーター表示一覧	65
3-4. レンズユニット（別売）の取り付けかた	67

アフターサービスについて	71
使いかたのご相談など／修理のご相談など	裏表紙

はじめに

このたびは、プロジェクター（本機）をお買いあげいただき誠にありがとうございます。
本機は、コンピューターやブルーレイプレーヤーなどに接続して、文字や映像をスクリーンに鮮明に投写するプロジェクターです。

本機を安全に正しく使用していただくため、ご使用前に、この取扱説明書（本書）をよくお読みください。また、万一ご使用中にわからないことや故障ではないかと思ったときにお読みください。

本製品には「保証書」を添付しています。保証書は、お買いあげの販売店から必ずお受け取りのうえ、大切に保存してください。

本書は、下記の機種について共通の説明書です。XP-X171Q-B を主にして説明しています。
本機は、日本国内向けモデルです。

- 本書で説明している機種名
XP-X171Q-B / XP-X141Q-B

- 本書では、別売のプロジェクター用レンズを「レンズユニット」と呼びます。

設置や調整およびお手入れの方法などを説明している「設置説明書」を、ホームページに掲載しています。

<https://smj.jp.sharp/r/31/>

【注意】

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
 - (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
 - (3) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。
 - (4) 本機の使用を理由とする損害、逸失利益等の請求につきましては、当社では（3）項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
 - (5) アプリやコンテンツサービスは、提供事業者の都合により、予告なく変更・停止・終了する場合があります。これに起因するすべての不具合や損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
-

2026 年 4 月 5 版

シャープ株式会社の許可なく複製・改変などはできません。

安全にお使いいただくために

電波障害に関する注意事項

この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI - A

警告：本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。

プロジェクターに接続する信号ケーブルは、シールドタイプを使用してください。それ以外のタイプのケーブルを使用した場合、受信障害の原因となることがあります。

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

絵表示について

この説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡や大けがをするなど人身事故の原因となります。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり周囲の財産に損害をあたえたりすることがあります。

絵表示の例

	▲ 記号は注意（警告を含む）をうながすことを表しています。 図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⊘ 記号はしてはいけないことを表しています。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	● 記号はしなければならないことを表しています。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。



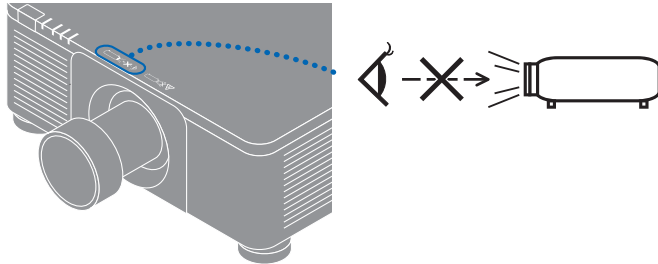
プロジェクターの投写光について



禁止

投写光と本体の表示

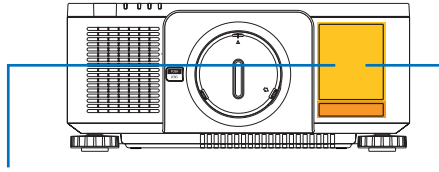
- プロジェクターのレンズをのぞかないでください。
動作中は強い光が投写されていますので、視力障害の原因となります。またレンズ近くでのレーザー光への露光は、やけどを引き起こす可能性があります。特にお子様には注意してください。
- 投写光を、光学機器（ルーペや反射鏡など）を使ってのぞかないでください。視力障害の原因になります。
- プロジェクターの電源を入れる際は、投写範囲内にレンズを見ている人がいないことを確認してください。
- お子様に一人でプロジェクターを操作させないでください。お子様が操作する場合は、必ず大人が付き添い、お子様から目を離さないでください。
- レンズの上のプロジェクター上面に、次ののぞきこみ禁止を表す図記号を表示しています。



次ページへ続く



- プロジェクター本体に次のラベルを貼付しています。



【XP-X171Q-B】

	This product is in conformity with performance standards for laser products under 21 CFR 1040, except with respect to those characteristics authorized by Variance Number FDA-2019-4-4413 effective on September 19, 2023. RISK GROUP 3 WARNING DO NOT LOOK INTO THE BEAM. NO DIRECT EYE EXPOSURE TO THE BEAM IS PERMITTED. MOUNT DISTANCE: REFER TO THE MANUAL. GROUPÉ DE RISQUE 3 MISE EN GARDE NE PAS REGARDER DIRECTEMENT DANS LE FAISCEAU. L'EXPOSITION DIRECTE DES YEUX AU FAISCEAU EST INTERDITE. DISTANCE À RISQUE: SE REPORTER AU MANUEL. RISIKOGRUPPE 3 WARNING SCHIEDEN SICH NICHT IN DEN STRAHLEN. DIREKTER AUGENKONTAKT MIT DEM STRAHLEN IST NICHT ERLAUBT. SICHERHEITSBESTAND: SIEHE HANDBUCH. ГРУППА РИСКА 3 ПРЕДУПРЕЖДЕНИЕ НЕ СМОТРИТЕ В ЛАЗЕР. ЗАПРЕЩАЕТСЯ ПРЯМОЕ ПРЯМОЕ ПОПАДАНИЕ ЛАЗЕРНОГО ПУЧКА В ГЛАЗА. ОСТОРОЖНОСТЬ: СМ. РУКОВОДСТВО ПО ЭКСПЛУАТАЦИИ. リスクグループ3 警告 ビームを見ないこと。 目へのビームの直接曝露は禁止する。 安全距離: 取扱説明書を参照。 注意 注意 3 直視 直視は厳禁です。 目へのビームの直接曝露は、危険な場合があります。 安全距離: 取扱説明書を参照してください。	危険性グループ 3 警告 直視厳禁です。 レーザー光線が直接目に入ると失明の恐れがあります。 安全距離: 取扱説明書を参照してください。 IEC/EN 62471-5:2015 注意 注意 3 直視 直視は厳禁です。 目へのビームの直接曝露は危険な場合があります。 安全距離: 取扱説明書を参照してください。 GB/T 30117.5-2019
CLASS 1 LASER PRODUCT APPAREIL À LASER DE CLASSE 1 LASERPRODUKT DER KLASSE 1 第3.1級レーザー製品 第一級雷射器產品 1类激光产品	クラス1レーザー製品 IEC/EN 60825-1: 2014 JIS C 6802: 2018 IEC 60825-1: 2014 EN 60825-1:2014+A11:2021 IECEN 62471-5: 2015	

本機は、IEC 62471-5:2015 規格のリスクグループ 3 に分類されます。

- ・ RG3 の場合、本機はプロフェッショナル用途となり、専門の設置業者による安全が担保された設置が必要です。
リスクグループについて、詳しくは [17 ページ](#)をご覧ください。
- ・ レーザー光線の安全に関する注意事項は [16 ページ](#)をご覧ください。

【XP-X141Q-B】

	This product is in conformity with performance standards for laser products under 21 CFR 1040, except with respect to those characteristics authorized by Variance Number FDA-2019-4-4413 effective on September 19, 2023. CAUTION! Do not stare into the beam RG2 This projector may become RG3 when an interchangeable lens with throw into greater than 2.12(0.8) is installed. Refer to the manual for the lens list and hazard distance before operation. Such combinations of projector and lens are intended for professional use only, and are not intended for consumer use. 注意！請勿直視光束 RG2 此投影机可能成为RG3产品，当安装投射比大于2.12（0.8）的可替换镜头时，参照使用手册中的镜头清单和危险距离，在操作前参阅手册。 投影机与镜头的这种组合仅供专业人士使用，不适用于一般消费者，也不适用于一般用途。
ATTENTION! Ne pas regarder dans le faisceau RG2 Ce projecteur peut devenir RG3 lorsqu'un objectif interchangeable avec un rapport de projection supérieur à 2.12 est installé. Avant utilisation, reportez-vous au manuel pour trouver la liste des objectifs et la distance de danger. Ces combinaisons de projecteur et d'objectif sont destinées à un usage professionnel uniquement et ne sont pas destinées à une utilisation grand public.	Complies with 21 CFR 1040.10 and 1040.11 except for conformance as a Risk Group 2 LP as defined in IEC 62471-5:2015, 1.5. For more information see Laser Notice No. 57, dated May 6, 2019. CLASS 1 LASER PRODUCT APPAREIL À LASER DE CLASSE 1 LASERPRODUKT DER KLASSE 1 第3.1級レーザー製品 第一級雷射器產品 1类激光产品 CONSUMER LASER PRODUCT APPAREIL À LASER GRAND PUBLIC VERBRAUCHER-LASERPRODUKT EN 60825-1:2014+A11:2021 EN 5801:2015 クラス1レーザー製品 IEC/EN 60825-1: 2014 JIS C 6802: 2018
WARNING: MOUNT ABOVE THE HEADS OF CHILDREN! Do not look into the beam less than 1m. No direct eye exposure to the beam is permitted. AVERTISSEMENT: INSTALLER AU-DESSUS DE LA TÊTE DES ENFANTS! Ne regardez pas directement dans le faisceau à moins d'une distance de moins de 1m.	

本機は、レンズユニットとの組み合わせによって、IEC 62471-5:2015 規格のリスクグループ 2 または 3 に分類されます。



電源について



国内専用

プロジェクターは日本国内専用です

- このプロジェクターと添付の電源コードは国内使用専用です。
- 日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
またこの製品に関する技術相談、アフターサービス等も日本国外ではお受けできません。

This product is designed for use in Japan and can not be used in any other countries.



必ず行う

正しい電源電圧で使用する

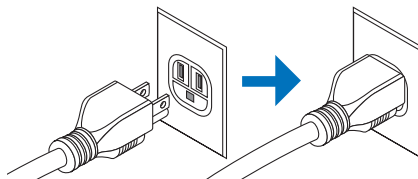
- このプロジェクターは、XP-X171Q-B は交流 100 ～ 240 ボルト、XP-X141Q-B は交流 100 ボルト、50/60 Hz の電源で使用するよう設計されています。プロジェクターを使用する前に、プロジェクターを接続する電源が要求を満たすものかを確認してください。
- プロジェクターの電源はコンセントを使用してください。危険ですので直接電灯線に接続しないでください。

アース線を
接続せよ**アース端子を接続する**

- 本機は電源コードのアース端子をアースに接続することを前提に設計されている 3 芯プラグ機器です。機器の安全確保のため、電源コードは、3 芯コンセントに直接接続し、機器のアースを確実に接続してご使用ください。アースを接続しないと感電するおそれがあります。

2 芯プラグへの変換アダプターは使用しないでください。詳細は [45 ページ](#)をご覧ください。

- プロジェクターとコンピューター（信号源）は必ず同じアースに接続してください。
プロジェクターとコンピューター（信号源）を離れた場所のアースに接続すると、アース電位の変動により、発火・発煙の原因となることがあります。
- アース工事は専門業者にご依頼ください。





禁止



感電注意



ぬれた手で
さわらない

電源コードの取り扱い

- このプロジェクターに添付している電源コードは、このプロジェクター専用です。安全のため他の機器には使用しないでください。
- 電源コードは大切に取扱ってください。コードが破損すると、火災・感電の原因となります。
 - ・ 添付されているもの以外の電源コードは使用しない
 - ・ コードの上に重い物をのせない
 - ・ コードをプロジェクターの下敷きしない
 - ・ コードの上を敷物などで覆わない
 - ・ コードを傷つけない、加工しない
 - ・ コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない
 - ・ コードを加熱しない
- 電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口に交換をご依頼ください。
- 雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

設置について



禁止

次のような所では使用しない

- 次のような所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
 - ・ ぐらついた台の上、傾いた所など、不安定な場所
 - ・ 風通しや換気の悪い所
 - ・ 直射日光のあたる所や熱器具のそば
 - ・ 振動の多い所
 - ・ 湿気、ほこり、油煙、湯気の当たる所
 - ・ 腐食性ガス（二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど）の存在する所
 - ・ 屋外
 - ・ 温度、湿度が急激に変化し結露がしやすい所
- 結露が起きたときには、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。そのまま使用すると故障の原因となることがあります。

次ページへ続く



水ぬれ禁止



プラグを抜く

- 次のような水にぬれるおそれがある所では使用しないでください。またプロジェクターの上に水のいった容器を置かないでください。火災・感電の原因となります。
 - ・雨天や降雪時、海岸や水辺で使用しない
 - ・風呂やシャワー室で使用しない
 - ・エアコン等水を排出する機器の近くで使用しない
 - ・プロジェクターの上に花びん、植木鉢を置かない
 - ・プロジェクターの上にコップ、化粧品、薬品を置かない
- 万一プロジェクターの内部に水などが入った場合は、まずプロジェクターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご連絡してください。



注意

天吊り設置

- 天吊りなどの特別な工事が必要な設置についてはお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。お客様による設置は絶対におやめください。落下してけがの原因となります。設置業者様は、22 ページの「設置や保管についての注意事項」をご覧ください。
- 設置や取り扱いが適切でない、誤使用、改造、天災などに起因する事故、損害については、当社は一切責任を負いません。
- 天吊りなどの設置をしたときは、プロジェクターにぶらさがらないでください。落下してけがの原因となります。
- 天吊り設置のときは電源プラグを抜き差しできるように手の届くコンセントを使用してください。

使用について



禁止



プラグを抜く

内部に物を入れない

- プロジェクターの通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいる家庭では注意してください。万一異物がプロジェクター内部に入った場合は、まずプロジェクターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご連絡してください。



 プラグを抜く	故障したときは電源プラグを抜く ● プロジェクターから煙が出ている、変なにおいがする、変な音がする場合、プロジェクターを落としたりキャビネットを破損した場合は、プロジェクターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となるだけではなく、視力障害ややけどの原因になります。お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口へ修理を依頼してください。 ● お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
 分解禁止	プロジェクターの分解禁止 ● プロジェクターのキャビネットを外したり、あけたりしないでください。また改造しないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電およびレーザー光がもれることによる視力障害ややけどの原因となります。 ● 内部の点検・調整・修理はお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口へ依頼してください。
 禁止  高温注意	プロジェクターの動作中にレンズの前に物を置かない ● 動作中にレンズにレンズキャップをしないでください。レンズキャップが高温になり変形します。 ● 動作中にレンズの前に物を置いて光をさえぎらないでください。物が高温になり、破損や火災の原因となります。 ● 上記を警告するために、プロジェクター本体に次の図記号を表示しています。 
 禁止	プロジェクターの清掃時 ● レンズやキャビネットなどに付着したほこりの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。火災の原因となります。
 禁止	極めて高い信頼性を必要とする業務に使用しない ● 生命維持にかかわる医療機器などの人命に直接かかわる業務や、航空機、原子力設備などの極めて高い信頼性を必要とする業務には使用できません。



注意

電源コードについて



必ず行う

電源コードの取り扱い

- 電源プラグを抜き差ししやすい場所のコンセントを使用してください。
- プロジェクターの AC IN 端子に電源コードを接続する際は、コネクターを奥までしっかり差し込んでください。電源コードの接続がゆるむと、火災・感電の原因となるおそれがあります。



必ず行う



プラグを抜く

火災や感電を防ぐために、次のことを守る

- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
- お手入れのときや、夜間、休業日などで長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源プラグや電源コードが熱いとき、またコンセントへの差し込みがゆるく電源プラグがぐらついているときは、使用をやめてお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。



必ず行う

電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く

- 火災・感電の原因となることがあります。



必ず行う

電源コードやケーブル類を抜いてから移動する

- コードやケーブルが引っ掛かり、落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。電源コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。



禁止

電源コードは、タコ足配線しない

- タコ足配線をすると、過熱により火災の原因となることがあります。

設置について



必ず行う

レンズユニットは落下防止用ワイヤーで固定する

- 天吊りなど、本機を高所から吊り下げて設置するような場合は、落下防止用ワイヤー（市販品）を使ってレンズユニットを固定してください。固定しないと、レンズユニットが外れた場合に落下するおそれがあります。



注意

使用について



禁止

過電圧が加わるおそれのあるネットワークには接続しない

- プロジェクターの HDBaseT ポートおよび LAN ポートは、過電圧が加わるおそれのないネットワークに接続してください。
HDBaseT ポートおよび LAN ポートに過電圧が加わると、感電の原因となることがあります。



必ず行う

レンズシフト、フォーカス、ズームの操作

- レンズシフト、フォーカス、ズームはプロジェクターの後ろまたは横から調整してください。前面で調整すると強い光が目に入り、視力障害の原因となります。
- レンズシフト動作中は、レンズの周囲に手を近づけないでください。キャビネットとレンズユニットの隙間に指を挟むおそれがあります。



必ず行う

乾電池は適切に取り扱う

乾電池は誤った使いかたをすると液もれや破裂によるけがの原因となることがあります。

- 指定以外の電池を使用しない。
- 乾電池のプラスとマイナスを、表示のとおり正しく入れる。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。
乾電池は種類によって特性が異なります。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しない。
新しい乾電池の寿命を短くしたり、古い乾電池から液がもれるおそれがあります。
- 乾電池が使えなくなったら、すぐに取り出す。
液がもれて故障の原因となるおそれがあります。
漏れた液に触れたときは、ただちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。
漏れた液が目に入ったときは、こすらずにすぐに水道水などのきれいな水で十分に洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 皮膚がかぶれたり、目に障害を与える原因となるおそれがあります。
- 長時間使わないときは、乾電池を取り出す。
- 高温になる場所や気圧の低い場所に放置しない。
破裂したり乾電池から可燃性の液やガスが漏れる可能性があります。

次ページへ続く

注意



必ず行う

- 乾電池を水の中に投入したり、器具で押しつぶしたり、焼却、加熱、切断、改造しない。
破裂のおそれがあります。
- 乾電池をショートや充電をしない。
- 乾電池を廃棄する際は、プラス（+）とマイナス（-）をセロハンテープで絶縁して廃棄する。
廃棄する際は販売店、または自治体に問い合わせてください。



禁止



高温注意

通風口について

- プロジェクターの通風口をふさがないでください。またプロジェクターの下に紙や布などのやわらかい物を置かないでください。火災の原因となることがあります。
プロジェクターを設置する場所は周囲から適当な空間をあけてください。（→ 24 ページ）
- 投写中および投写終了直後は、排気口付近をさわらないでください。排気口付近が高温になる場合があります、やけどの原因となることがあります。



禁止

プロジェクターの持ち運び

- レンズユニットを取り外した状態で、底面の取っ手に手をかけて、2人以上で持ち運んでください。
1人で持ち運んだ場合、けがや腰痛の原因となることがあります。
- プロジェクターを持ち運ぶときに、取っ手以外の部分を持たないでください。プロジェクターが落下して、けがの原因となることがあります。
- プロジェクターを持ち運ぶときに、レンズの挿入口に手をかけないでください。また、接続端子部のくぼみに手をかけないでください。プロジェクターが破損して落下し、けがの原因となることがあります。



必ず行う

レンズの取り外し / 取り付け

- レンズユニットを着脱する際は、プロジェクターの電源を切り、電源コードを抜いてください。視力障害ややけどの原因となることがあります。
- プロジェクターを高所に設置した状態でレンズユニットを着脱しないでください。
レンズユニットが落下して、破損やけがの原因となることがあります。



注意



禁止

本機を強く押さない、乗らない、つかまない、ぶら下がらない、硬いものでこすったり、たたいたりしない

- 破損して火災、感電、けがの原因となることがあります。



必ず行う

温度や湿度が急激に変化する環境での使用、保存を避ける

- 以下の使用環境・保存環境で本機をご使用、保存ください。守らなかった場合は故障、火災や感電などの原因となることがあります。

動作温度：0 ～ 45 ℃ / 湿度：20 ～ 80 % (結露のないこと)

保存温度：-10 ～ 60 ℃ / 湿度：20 ～ 80 % (結露のないこと)

点検と清掃について



必ず行う

プロジェクターの点検・本体内部の清掃

- 1年に一度くらいは内部の清掃をお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。プロジェクターの内部にほこりがたまったまま、長い間清掃をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に清掃すると、より効果的です。なお、内部の清掃費用につきましてはお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。

レーザー光線の安全に関する注意事項



クラス 1 レーザー製品

- 本製品は、レーザー製品の安全基準 JIS C 6802:2018、および IEC 60825-1:2014 においてクラス 1 に分類されています。
- 本製品にはレーザーモジュールが内蔵されています。本書に記載した以外の手順による制御及び調整は、危険なレーザー放射の露光に結びつくことがあります。
またレンズ近くでのレーザー光への露光は、やけどを引き起こす可能性があります。

【内蔵されたレーザーの概要】

- ・ 波長：449 ～ 461 nm (blue) , 635 ～ 651 nm (red)
- ・ 最大出力：456 W (blue) , 72 W (red)

リスクグループについて

XP-X171Q-B

本機は、IEC 62471-5:2015 規格のリスクグループ 3 に分類されます。

XP-X141Q-B

本機は、レンズユニットとの組み合わせによって、IEC 62471-5:2015 規格のリスクグループ 2 またはリスクグループ 3 に分類されます。

リスクグループ 2 (RG2)



警告

明るい光源と同じように、ビームをのぞき込まないこと。RG2 IEC 62471-5:2015.

リスクグループ 3 (RG3)



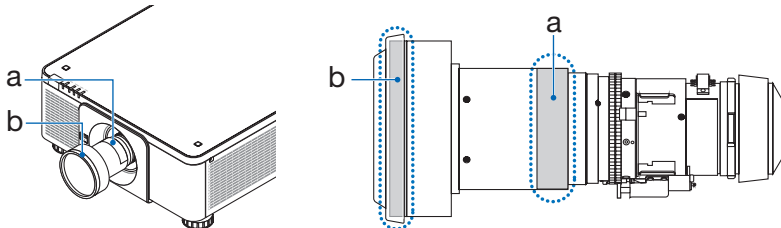
警告

- RG3 の場合、本機はプロフェッショナル用途となり、安全が担保される設置が必要です。そのため専門の設置業者が設置することが義務付けられていますので、必ず販売店へご相談ください。お客様による設置は絶対におやめください。視力障害などの原因となります。
- 目へのビームの直接被ばくを禁止します。RG3 IEC 62471-5:2015
- プロジェクターのレンズをのぞかないでください。視力傷害の原因になります。
- 機器管理者（オペレーター）は、侵入禁止領域内でのビームへの被ばくを管理するか、侵入禁止領域内での観客の目への露光を避ける高さに本機を設置すること。
- プロジェクターの電源を入れる際は、プロジェクター本体の側面または背面（侵入禁止領域の外）で操作してください。

・ 本機を設置する前に確認してください（XP-X141Q-B の場合）

① レンズユニットの形名または投写比

レンズユニットの形名と投写比は、下図で示した位置に記載されています。



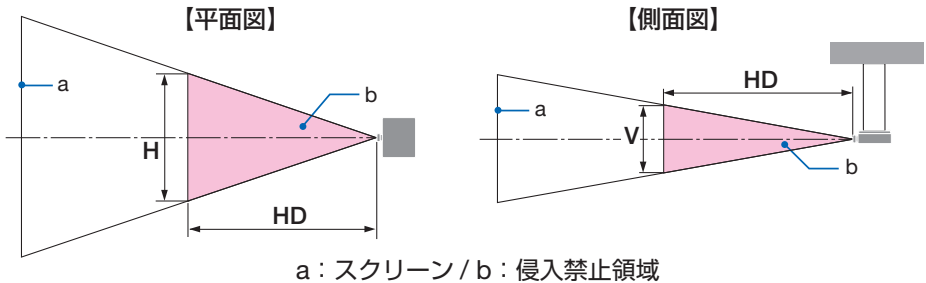
a : レンズユニット形名 / b : 投写比

② レンズユニットとリスクグループの組み合わせ

レンズユニット形名	投写比	XP-X141Q-B
XP-57UL	0.31 ~ 0.33	RG2
XP-58ZL	0.55 ~ 0.75	
XP-59ZL	0.74 ~ 1.08	
XP-60ZL	1.05 ~ 1.41	
XP-61ZL	1.40 ~ 2.11	
XP-62ZL	2.10 ~ 4.00	RG3

・ リスクグループ 3 の場合の侵入禁止領域と注意事項

下図の範囲は、IEC 62471-5:2015 にてリスクグループ 3 (RG3) に分類された投写光の範囲 (侵入禁止領域) を表しています。

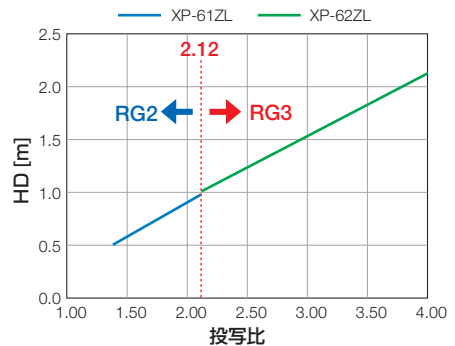


XP-X171Q-B

レンズユニット	投写比 TR@0.8"	侵入禁止領域 (m)		
		HD	水平 H	垂直 V
XP-57UL	0.31 (ワイド)	0.13	0.41	0.26
	0.33 (テレ)	0.14	0.41	0.26
XP-58ZL	0.55 (ワイド)	0.23	0.42	0.26
	0.75 (テレ)	0.40	0.53	0.33
XP-59ZL	0.74 (ワイド)	0.33	0.53	0.33
	1.08 (テレ)	0.60	0.60	0.38
XP-60ZL	1.05 (ワイド)	0.48	0.54	0.34
	1.41 (テレ)	0.73	0.57	0.35
XP-61ZL	1.40 (ワイド)	0.62	0.49	0.31
	2.11 (テレ)	1.16	0.58	0.36
XP-62ZL	2.10 (ワイド)	1.18	0.57	0.36
	4.00 (テレ)	2.53	0.66	0.41

XP-X141Q-B

レンズユニット	投写比 TR@0.8"	侵入禁止領域 (m)		
		HD	水平 H	垂直 V
XP-62ZL	2.10 (ワイド)	—	—	—
	2.12 (中間)	1.00	0.49	0.31
	4.00 (テレ)	2.11	0.56	0.35



【投写比の計算方法】

投写比＝投写距離 L [m] ÷スクリーンの幅 W [m]

投写距離とスクリーンの幅は、設置説明書の「レンズユニットの種類と投写距離」を参照ください。

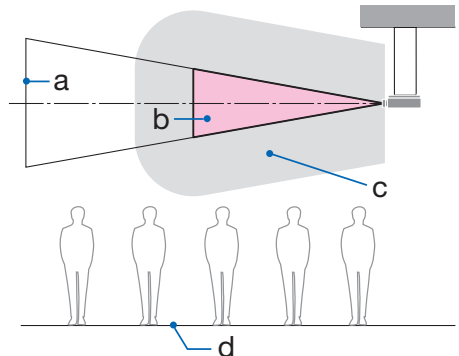
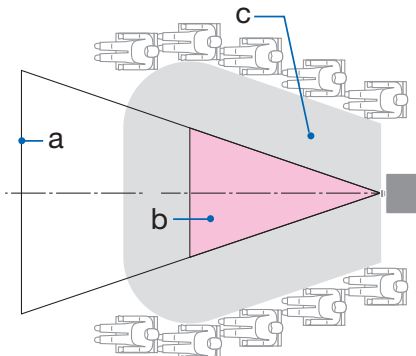
保安領域について

保安領域や物理的バリアを設けることで、人の目が侵入禁止領域に侵入することを防止できます。

公共の施設など、機器管理者（オペレーター）が侵入禁止領域内への観客の侵入を制御できないときは、観客の安全を考慮した保安領域として、侵入禁止領域から 1m 以上の空間を確保することをおすすめします。また、プロジェクターを頭上に設置する場合は、床面と侵入禁止領域の距離を垂直方向に 3m 以上確保することをおすすめします。

保安領域を考慮した設置例（XP-57UL 以外のレンズユニットの場合）

- ① 床置きまたはデスクトップ設置の例 ② 天吊り設置の例



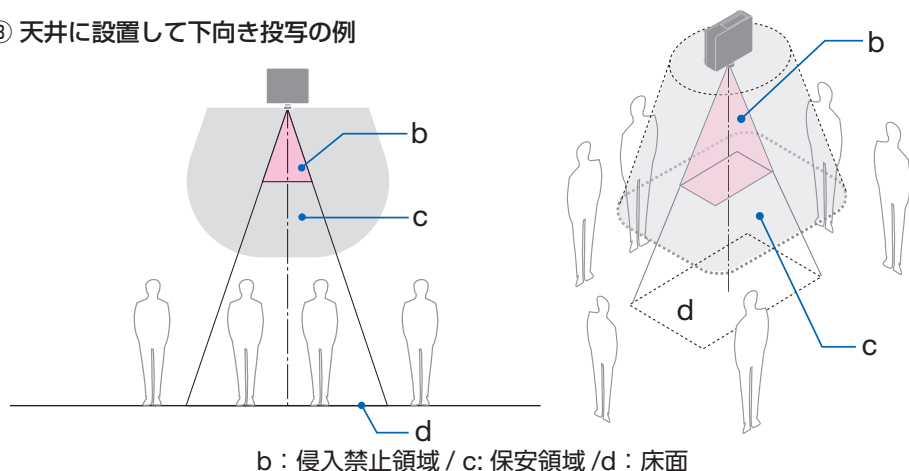
a : スクリーン / b : 侵入禁止領域 / c: 保安領域 / d : 床面



注意

天吊り時に侵入禁止領域へ観客の侵入が想定される場合（例えば床面と保安領域の距離が 2m 以下の場合）は、その範囲への観客の立ち入りに制限が必要です。

③ 天井に設置して下向き投写の例



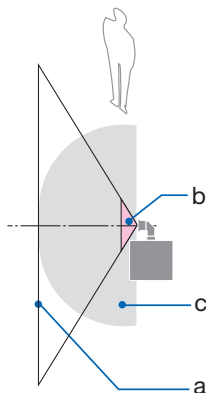
注意

床面と侵入禁止領域の間の保安領域を確保できない場合は、右図のように画面の周囲への観客の立ち入りに制限が必要です。

※ レンズシフトをお使いの場合は、画面が移動します。シフト量も考慮してください。

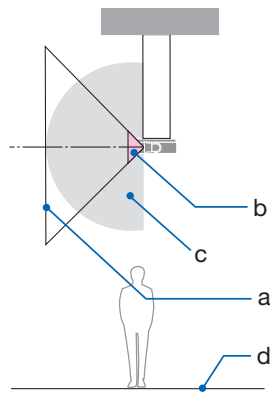
保安領域を考慮した設置例 (XP-57UL の場合)

① 床置きまたはデスクトップ設置の例



a : スクリーン / b : 侵入禁止領域 / c: 保安領域 / d : 床面

② 天吊り設置の例



注意

床面と侵入禁止領域の間の保安領域を確保できない場合は、プロジェクターとスクリーンの間への観客の立ち入りに制限が必要です。

※ 上図は、代表的な設置の例です。この他に、プロジェクターを傾けて設置する場合も、同様に保安領域を確保する必要があります。



安全確保のため、以下の事項を順守してください。

設置について

- 設置場所のレイアウト設計の際には設置説明書に記載された安全への処置の実施を遵守すること。
- 危険回避のため、緊急時に電源プラグをコンセントから抜けるように、コンセントは手の届く範囲に設置すること。
もしくは、プロジェクターを停止できるようなデバイス（ブレーカー）を設けること。
- 前項の侵入禁止領域へ人の目が入らないような安全処置をすること。
- 設置する場所に適したレンズを選定し、レンズごとに設定された安全のための領域を確保する処置を適切にすること。
プロジェクターを動作させて光の調整作業などをする前に、必ず適切な処置を完了すること。
- 設置後にレンズごとに設定された安全確保の処置が適切に施行されているか妥当性を確認すること。
妥当性の確認は定期的を実施し、確認結果の記録を保管すること。

設置業者または販売店から機器管理者（オペレーター）に対して、必ず以下を実施してください

- 機器管理者（オペレーター）に対して、安全に関する教育を機器使用前に必ず実施すること。
- 機器管理者（オペレーター）に対して、動作前点検（投写光に対する安全の確認を含む）を必ず実施するように指示すること。
- 機器管理者（オペレーター）に対して、プロジェクター動作時には必ず機器管理者（オペレーター）が緊急時の対応が出来るような状態で管理するように指示すること。
- 機器管理者（オペレーター）に対して、設置説明書、点検記録をいつでも参照できるところへ保存・保管しておくよう指示すること。
各国、各地域の規制を遵守した状態であることを明確にしておくように指示すること。

設置や保管についての注意事項

● 次のような場所に設置したり、保管したりしないでください。

(RG3 の場合：ご販売店・設置業者様用)

- ・ 振動や衝撃が加わる場所
動力源などの振動が伝わる所に設置したり、車両、船舶などに搭載すると、プロジェクターに振動や衝撃が加わって内部の部品が傷み、故障の原因となります。
- ・ 高圧電線や動力源の近く
妨害を受ける場合があります。
- ・ 強い磁界が発生する場所
故障の原因となります。
- ・ 屋外および湿気やほこりの多い場所
油煙や湯気の当たるような場所
腐食性のガスが発生する場所
キャビネットに油や薬品、水分などが付着した場合、キャビネットの変形またはひび割れ、金属部分の腐食、および故障の原因となります。

● 天吊り設置時の注意事項（ご販売店・設置業者様用）

本機を設置する際は、ホームページに掲載している「設置説明書」をご覧ください。

- ① 落下防止のためプロジェクターおよび天井取付けユニットの荷重に長期間耐えるようにしてください。
- ② 設置は、天井取付けユニットの取扱説明書に従って、正しく確実に作業してください。所定のネジや固定金具はすべて確実に取り付けてください。
- ③ 落下防止のために落下防止ワイヤーを使用してください。
 - ・ 市販の金具などを用いて建物や構造物の丈夫な箇所とプロジェクターのセキュリティバーを落下防止ワイヤーで接続してください。
 - ・ 市販の金具や落下防止ワイヤーはプロジェクターおよび天井取付けユニットの荷重に耐えられるように十分強度のある物をご使用ください。
 - ・ 落下防止ワイヤーはプロジェクターに負荷をかけないように、少したるませるように設置してください。
 - ・ セキュリティバーの位置については、[33](#) ページをご覧ください。

廃棄について

本機を廃棄する際は、お買いあげの販売店、または自治体にお問い合わせください。

個人情報の初期化について

本機には、IP アドレス等の情報が記録されている可能性があります。本機を廃棄または譲渡する前に、オンスクリーンメニューで「リセット」を実行してください。

リセットできない項目は、個別に工場出荷状態に戻してください。

プロジェクターの性能確保のための注意事項

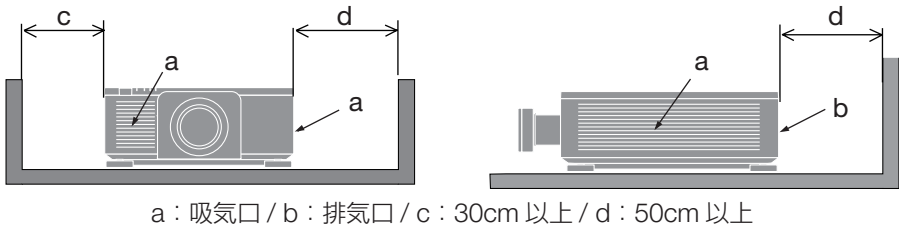
- レーザー光線のような強い光がレンズから入り込むと、故障の原因となります。
- たばこの煙の多い場所での使用・長時間の使用
 - ・ たばこの煙・ほこりの多い場所で使用する場合、または長時間連続して使用する場合は、あらかじめ本書の裏表紙に掲載しているシャープサポートページをご確認ください。
- プロジェクターを高所（気圧の低い所）で使用すると、光学部品の交換時期が早まる場合があります。
- プロジェクターの持ち運びについて
 - ・ いったんレンズユニットを取り外し、レンズに傷が付かないように必ずレンズキャップを取り付けてください。また、プロジェクターには防塵キャップを取り付けてください。
 - ・ プロジェクターに振動や強い衝撃を与えないでください。
プロジェクターの故障の原因となります。
- チルトフットはプロジェクターの傾き調整以外の用途には使用しないでください。
チルトフット部分を持って運んだり、壁に掛けて使用するなどの誤った取り扱いをすると、故障の原因となります。
- 投写レンズ面は素手でさわらないでください。
投写レンズ面に指紋や汚れが付くと、拡大されてスクリーンに映りますので、投写レンズ面には手を触れないでください。
- 投写中に電源コードを抜かないでください。プロジェクターの AC IN 端子や電源プラグの接触部分が劣化するおそれがあります。投写中に AC 電源を切断する場合は、ブレーカーなどを利用してください。
- リモコンの使用上の注意
 - ・ リモコン受光部に直接日光や強い照明が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
 - ・ リモコンとリモコン受光部との間に障害物があると、操作できないことがあります。
 - ・ 乾電池が消耗してくると、操作できる距離が徐々に短くなります。早めに新しい乾電池に交換してください。
 - ・ 蛍光灯などが近くにある場合は、動作しにくいことがあります。
 - ・ 誤動作防止のために、エアコンやステレオコンポなど他の機器のリモコンと同時に使用しないでください。
 - ・ 他の機器のリモコンによる影響が懸念される場合は、リモコンの識別 ID（リモコン ID またはコントロール ID）を設定するなどして誤動作を防止してください。
 - ・ プロジェクターから約 7 m 以内でプロジェクターのリモコン受光部に向けて操作してください。
 - ・ リモコンを落したり、誤った取り扱いはしないでください。
 - ・ リモコンに水や液体をかけないでください。万一ぬれた場合は、すぐにふき取ってください。
 - ・ できるだけ熱や湿気の少ないところで使用してください。

- スクリーンへの外光対策をしてください。
スクリーンには、照明などプロジェクター以外からの光が入らないようにしてください。
外光が入らないほど、ハイコントラストで美しい映像が見られます。
- スクリーンについて
ご使用のスクリーンに汚れ、傷、変色などが発生すると、きれいな映像が見られません。
スクリーンに揮発性のものをかけたり、傷や汚れが付かないよう取り扱いにご注意ください。
- お手入れについて
「設置説明書」をご覧くださいのうえ、指示に従ってください。

設置する際の周囲との距離についての注意

(RG3 の場合：ご販売店・設置業者様用)

- プロジェクターを設置する際は、下記のように周囲に十分な空間を作ってください。
プロジェクターから出た高温の排気が再びプロジェクターに吸気される場合があります。
また、エアコンから吹き出された風がプロジェクターに当たらないようにしてください。
プロジェクターの温度制御で異常（温度エラー）を感知して自動的に電源が切れることがあります。



[注意]

- 上の図において、プロジェクターの上方には十分な空間があるものとします。
- マルチスクリーン投写など、複数台のプロジェクターを並べて設置する場合は、吸気と排気に障害が生じないように、本体の周囲に十分な空間をあけてください。吸気と排気に障害が生じると、プロジェクターの内部温度が上昇し、故障の原因となります。



投写する映像の著作権について

- 営利目的または公衆に視聴させることを目的として、プロジェクターを使って映像を投写する場合、プロジェクターの機能を使ってオリジナルの映像に対して投写範囲を小さくしたり変形したりすると、著作権法上で保護されている著作権者の権利を侵害するおそれがあります。
アスペクト、台形補正、部分拡大などの機能を使用する場合はご注意ください。

有線 LAN に関するご注意

- 本機の HDBaseT ポートおよび LAN ポートは公衆回線（電気通信事業者から貸与またはレンタルされたルーターを含む）に直接接続することを意図して設計されていません。そのため HDBaseT ポートおよび LAN ポートを公衆回線に直接接続することは電気通信事業法で禁止されています。

商標について

- ・ HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMI のトレードドレスおよび HDMI のロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。
- ・ HDBaseT™ および HDBaseT Alliance ロゴは、HDBaseT Alliance の商標です。
- ・ DisplayPort および DisplayPort ロゴは、Video Electronics Standards Association の米国その他の国における商標です。
- ・ DLP® および DLP ロゴは、Texas Instruments の登録商標です。
- ・ PJLink 商標は、日本・米国その他の国や地域における登録商標または出願商標です。
- ・ ブルーレイは、Blu-ray Disc Association の商標です。
- ・ Crestron™、Crestron Connected™、は Crestron Electronics, Inc. の米国その他の国における登録商標または商標です。
- ・ その他説明書に記載のメーカー名および商品名は、各社の登録商標または商標です。

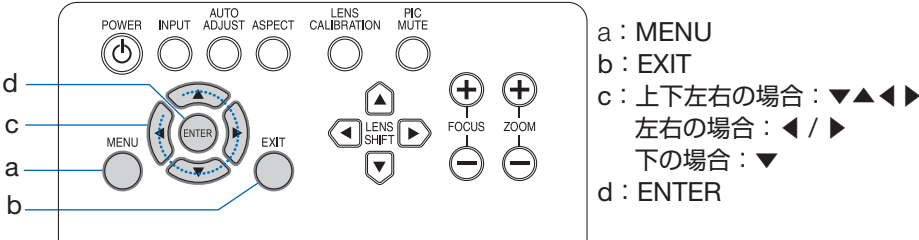
本書の表記について

マークの意味

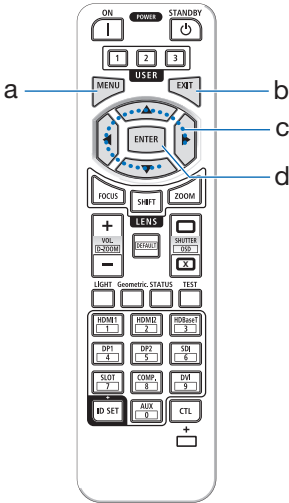
[重要]	データが消えたり、もとに戻せない操作など、十分に注意していただきたいことを表しています。
[注意]	注意や制限事項を表しています。
[参考]	補足説明や役立つ情報を表しています。
→ 00 ページ	本書内の参照ページを表しています。

操作ボタンの表記例

●本体の操作ボタン



●リモコンの操作ボタン



[参考]

● 本書に載せている表示画面は、実際と多少異なる場合があります。

1. 製品概要、添付品、名称を確認する

1-1. 特長

● 1 チップ DLP 方式の高輝度・高解像度プロジェクター

表示解像度 3840 ドット× 2400 ライン(4K)、アスペクト比 16:10 のプロジェクターです。

機種名	明るさ
XP-X171Q-B	16500 lm / 17000 lm (センター) AC 100 V 時は 14000 lm / 14400 lm (センター)
XP-X141Q-B	13500 lm / 13900 lm (センター)

● 高い防塵性能を可能とした独自の密閉構造

防塵性能に優れているため、フィルターを搭載していません。そのため、フィルターの交換が不要です。

● 長寿命レーザー光源を採用

レーザー光源は長寿命のため、光源の交換や調整などのメンテナンスが長期間不要です。

● 設置場所に応じて選べるオプションレンズ

6 種類のオプションレンズに対応しており、様々な設置場所、投写方法に合わせたレンズを選択することができます。

なお、工場出荷時はレンズ未装着のため、別途オプションレンズをお買い求めください。

● 360° の設置、ポートレート投写が可能

本機は垂直方向に 360° どの角度でも投写できる「チルトフリー」や、水平方向に 360° どの角度でも投写できる「ロールフリー」機能を搭載しています。

● 電動レンズコントロールで容易な画面調整

本体側面の操作ボタンやリモコンの操作で、投写画面のズーム、フォーカス、位置調整（レンズシフト）ができます。

● HDMI、DisplayPort、HDBaseT、SDI などの豊富な入力端子

HDMI (1/2)、DisplayPort (1/2)、HDBaseT、SDI (IN/OUT) の入力端子を装備しています。本機の HDMI 入力端子、DisplayPort 入力端子は、HDCP に対応しています。

※ HDBaseT は、HDBaseT Alliance によって策定された家電製品向けの接続規格です。

● 複数台のプロジェクターを用いたマルチスクリーン投写

複数台のプロジェクターを並べて、エッジブレンディング機能により画面の境界を滑らかにし、解像度の高い映像をさらに大画面で投写することができます。

● 有線 LAN

LAN ポートと HDBaseT ポートを装備しているため、有線 LAN に接続してコンピューターから本機を制御することができます。

● 便利なアプリケーションソフトに対応

- ・ NaViSet Administrator 2
コンピューターとプロジェクターを有線 LAN で接続して、コンピューター側からプロジェクターの様々な機能を制御するソフトウェアです。
- ・ ProAssist
コンピューターとプロジェクターを有線 LAN で接続して、コンピューターからプロジェクターのレンズ制御などを行うソフトウェアです。なお、ProAssist には、本機で対応していない機能があります。

● Crestron Connected に対応

Crestron Connected に対応しています。コンピューターから、ネットワークに接続した複数の機器を管理・制御することができます。

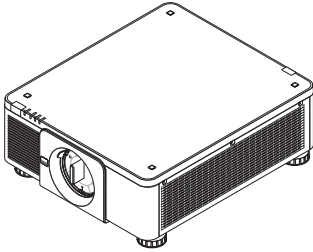
詳細は、Crestron Electronics 社のホームページをご覧ください。

<https://www.crestron.com/>

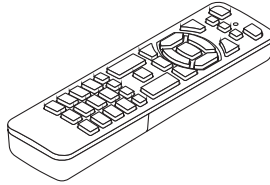
※ XiO Cloud には対応していません。

1-2. 添付品の確認

添付品の内容をご確認ください。



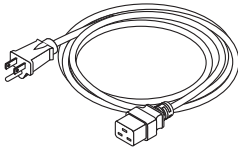
プロジェクター（本機）
防塵キャップ



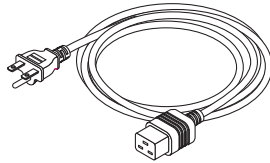
リモコン



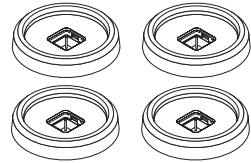
単4形アルカリ乾電池
（リモコン用）2本



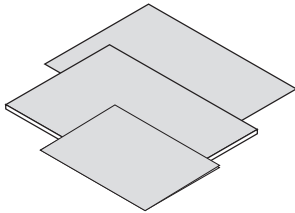
AC100 V 用電源コード
（3芯タイプ）（2.5 m）



【XP-X171Q-B のみ】
AC200 V 用電源コード
（3芯タイプ）（2.5 m）



スタッキングホルダー：4 個
本機を積み重ねて投写する場合
（スタック設置）、プロジェク
ターのチルトフットをのせるた
めのホルダーです。



クイックスタートガイド
重要なお知らせ
保証書



XP-15CM 取り付け用ネジ（M4 × 16mm）：6 本

別売の天吊り金具 XP-15CM を本機に取り付けるときに使用します。

※ 取り付けは、販売店に依頼してください。

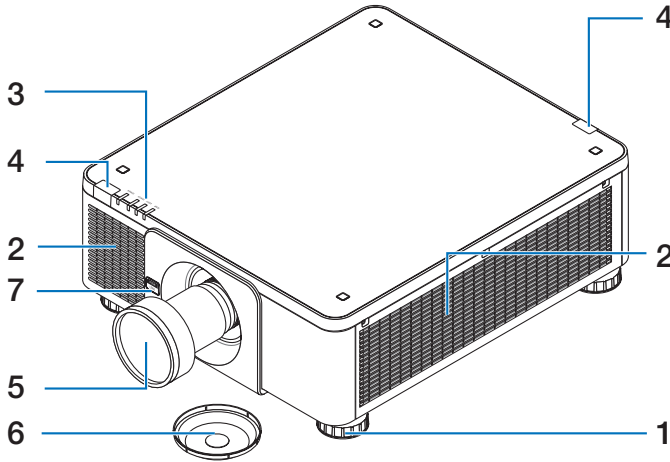
【参考】

- 万一添付品などが不足していたり破損している場合は、お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご連絡ください。
- 添付品の外観が本書のイラストと多少異なる場合がありますが、実用上の支障はありません。

1-3. 本体各部の名称

本体前部

レンズは別売です。レンズユニット XP-61ZL を装着している状態で説明しています。



1 チルトフット（4箇所）

チルトフットを回して左右の傾きを微調整します。

2 吸気口

外気を取り込み、内部を冷却します。

3 インジケータ表示部

電源入／スタンバイなど本機の状態をインジケータの点灯／点滅で知らせます。

4 リモコン受光部

リモコンの信号を受ける部分です。本体の前面と背面の2箇所にあります。

5 レンズ

ここから映像が投写されます。（レンズユニットは別売です。）

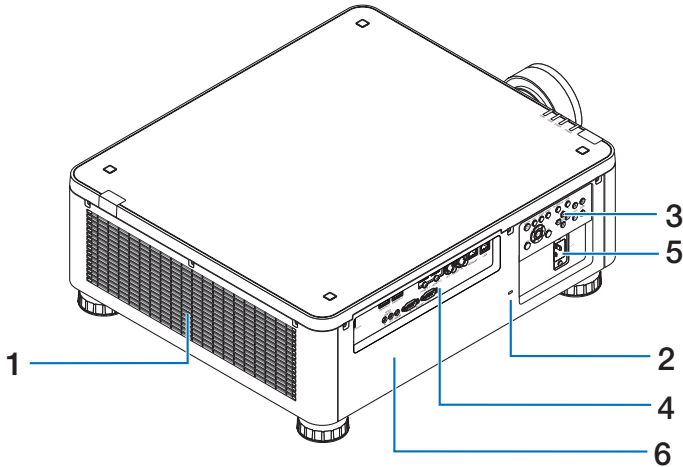
6 レンズキャップ（レンズユニットに装着）

レンズを保護します。

7 レンズリリース（LENS）ボタン

レンズユニットの取り外しの際に使用します。

本体後部



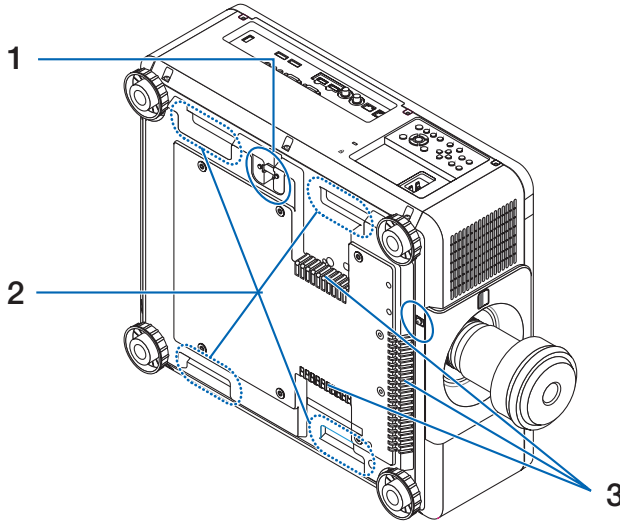
- 1 **排気口**
内部の熱を排気します。
- 2 **セキュリティスロット**
盗難防止のためワイヤーケーブルを付ける際に使用します。
詳しくは下記の「参考」をご覧ください。
- 3 **本体操作部**
本機の電源の入／切や、投写する映像信号の切り替え操作などができます。
- 4 **接続端子部**
各種映像信号のケーブルを接続します。
- 5 **AC IN 端子**
添付の電源コードを接続します。
- 6 **銘板ラベル**

.....

[参考]

- セキュリティスロットについて 
セキュリティスロットは、市販のケンジントン社製セキュリティケーブルに対応しています。製品については、ケンジントン社のホームページをご参照ください。
-

本体底面



1 セキュリティバー

盗難防止用チェーン（またはワイヤー）を取り付けます。
本機のセキュリティバーは、直径 4.6 mm の太さのものまで対応しています。

2 取っ手（4箇所）

本機を移動させるときは、この取っ手に手をかけて持ち上げます。

3 吸気口

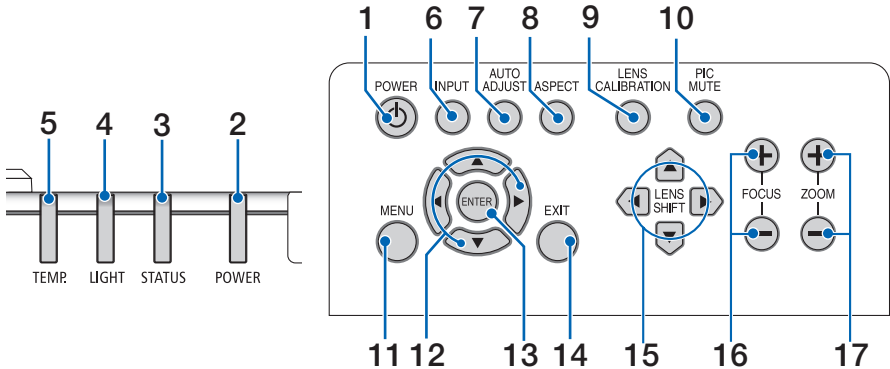
外気を取り込み、内部を冷却します。



注意

- 取っ手に手をかけて、2人以上で持ち運んでください。
1人で持ち運んだ場合、けがや腰痛の原因となることがあります。
- 本機を持ち運ぶ場合に、取っ手以外の部分を持たないでください。
落下してけがの原因となることがあります。

本体操作部 / インジケーター表示部



1 ㊦ ボタン (電源ボタン)

本機の電源を入／スタンバイ (待機状態) します。

電源を切る (スタンバイ状態) ときは、一度押すと画面に確認メッセージが表示されるので、続いてもう一度㊦ ボタンを押します。

2 電源インジケーター (POWER)

本機の電源の状態を表すインジケーターです。

電源が入っているときは緑色に点灯します。電源が切れているときは、状態によって赤色またはオレンジ色で点灯／点滅します。

詳しくは「インジケーター表示一覧」をご覧ください。(→ 65 ページ)

3 ステータスインジケーター (STATUS)

レンズのキャリブレーション中などに点灯／点滅します。

詳しくは「インジケーター表示一覧」をご覧ください。(→ 65 ページ)

4 ライトインジケーター (LIGHT)

光源の状態をお知らせします。

5 温度インジケーター (TEMP.)

プロジェクター周囲の温度が高くなっていることをお知らせします。

6 INPUT ボタン

押すごとに、HDMI1 → HDMI2 → DisplayPort1 → DisplayPort2 → HDBaseT → SDI の順で入力端子が切り替わります。

7 AUTO ADJUST ボタン

投写している映像を最適な状態に自動調整します。

8 ASPECT ボタン

押すごとにアスペクトを切り替えます。

9 LENS CALIBRATION ボタン

レンズユニットおよびレンズシフトの調整範囲を校正し、レンズシフトがホームポジションに戻ります。

10 PIC MUTE ボタン

映像を一時的に消します。もう一度押すと戻ります。

11 MENU ボタン

各種設定・調整のオンスクリーンメニューを表示します。

12 ▼▲◀▶ ボタン

- ・ オンスクリーンメニューを表示しているときに▼▲◀▶ボタンを押すと、設定・調整したい項目を選択できます。
- ・ テストパターン表示中は、パターンを変更します。

13 ENTER ボタン

オンスクリーンメニュー表示中は、次の階層のメニューに進みます。
確認メッセージ表示中は、項目を決定します。

14 EXIT ボタン

オンスクリーンメニュー表示中は、メニューを閉じます。
確認メッセージ表示中は、操作を取り消します。

15 LENS SHIFT ボタン

投写画面の位置を調整します。

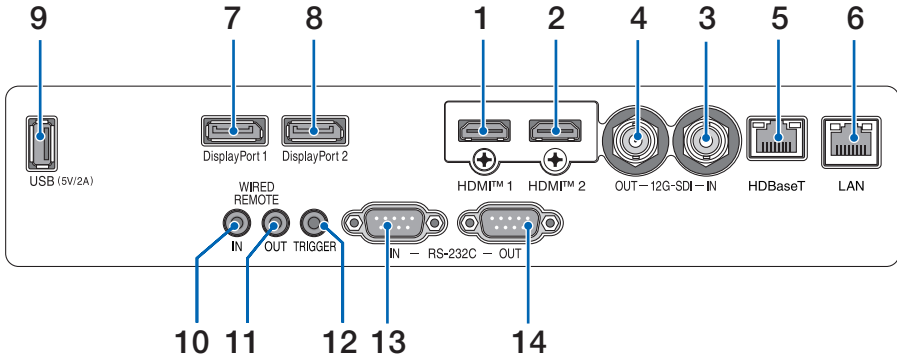
16 FOCUS ボタン

投写画面のピントを合わせます。

17 ZOOM ボタン

投写画面の大きさを微調整します。

接続端子部



- 1 **HDMI 1 入力端子 (タイプ A)**
コンピューターやブルーレイプレーヤーなどの出力端子と接続します。
- 2 **HDMI 2 入力端子 (タイプ A)**
コンピューターやブルーレイプレーヤーなどの出力端子と接続します。
- 3 **SDI 入力端子 (BNC)**
映像機器の SDI 出力端子と接続します。
- 4 **SDI 出力端子 (BNC)**
SDI 入力端子に入力された映像信号を出力します。
- 5 **HDBaseT ポート (RJ-45)**
本機を市販の HDBaseT 対応の伝送機器に接続します。
- 6 **LAN ポート (RJ-45)**
本機を有線 LAN に接続します。接続すると本機の HTTP サーバー機能を利用し、コンピューターでウェブブラウザーを使用して本機を制御することができます。
- 7 **DisplayPort 1 入力端子 (DisplayPort 20 ピン)**
コンピューターなどの DisplayPort 出力端子と接続します。
- 8 **DisplayPort 2 入力端子 (DisplayPort 20 ピン)**
コンピューターなどの DisplayPort 出力端子と接続します。
- 9 **USB-A ポート (タイプ A)**
本機の電源が入っているときに 5.0V/2.0A の電源を供給します。

10 ワイヤードリモート入力端子（ステレオ・ミニ）

本機を有線でリモコン操作する場合に使用します。

【注意】

- リモート端子にリモコンケーブルが接続されているときは、赤外線でのリモコン操作はできません。
-

11 ワイヤードリモート出力端子（ステレオ・ミニ）

ワイヤードリモート入力端子に入力されたリモコン信号を出力します。

12 スクリーントリガー端子（ステレオ・ミニ）

本機の電源を入れると、スクリーンの制御電圧が出力されます。

本機の電源の入／切に応じて、スクリーンの上げ下げなどの制御をする場合に、スクリーンコントローラーなどの機器に接続します。

13 RS-232C 入力端子（D-Sub 9 ピン）

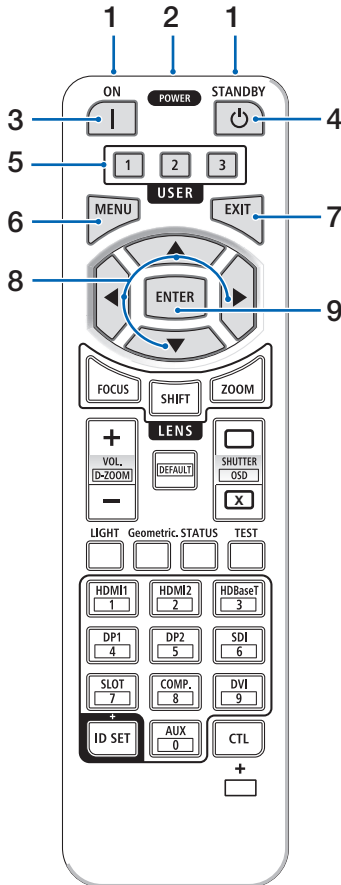
コンピューターから制御コマンドを送信して本機を操作する場合に使用します。

市販のリバースタイプ（クロスタイプ）の RS-232C ケーブルを接続してください。

14 RS-232C 出力端子（D-Sub 9 ピン）

RS-232C 入力端子に入力された制御信号を出力します。

1-4. リモコン各部の名称



1 リモコン送信部

赤外線によるリモコン信号が送信されます。本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

2 リモコンケーブル接続端子

リモコンを有線で使用するとき、市販のΦ3.5 ステレオミニプラグ付きケーブル（抵抗なし）を接続します。

3 POWER ON ボタン (I)

スタンバイ状態のときに、本機の電源を入れます。

4 POWER STANDBY ボタン (⏻)

一度押すと電源オフ確認メッセージを表示します。もう一度 POWER STANDBY（または ENTER）ボタンを押すと、本機の電源が切れます。

5 USER1/2/3 ボタン

USER1: 投写している映像を最適な状態に自動調整します。

USER2/3: (本機では使用しません)

6 MENU ボタン

各種設定・調整のオンスクリーンメニューを表示します。

7 EXIT ボタン

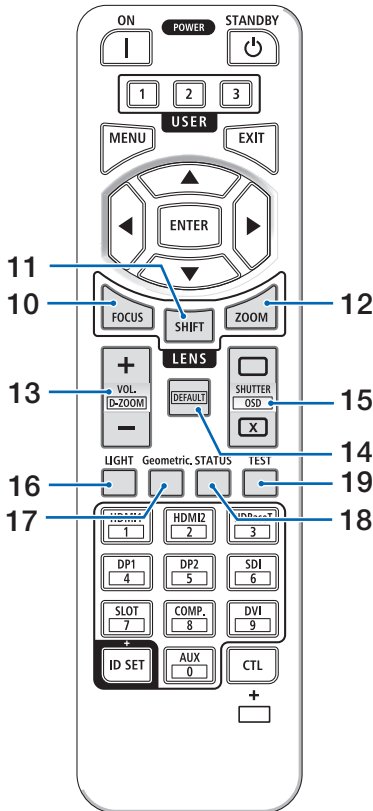
オンスクリーンメニュー表示中は、メニューを閉じます。確認メッセージ表示中は、操作を取り消します。

8 ▼▲◀▶ ボタン

オンスクリーンメニュー操作や D-ZOOM ボタン、SHIFT ボタンと組み合わせて使用します。
・テストパターン表示中は、パターンを変更します。

9 ENTER ボタン

オンスクリーンメニュー表示中は、次の階層のメニューに進みます。
確認メッセージ表示中は、項目を決定します。



10 FOCUS ボタン

レンズ制御（ズーム／フォーカス）画面を表示します。◀ / ▶ ボタンでレンズのフォーカスを調整します。

11 SHIFT ボタン

レンズ制御（シフト）画面を表示します。
▼▲◀▶ ボタンでレンズ位置を調整します。

12 ZOOM ボタン

レンズ制御（ズーム／フォーカス）画面を表示します。▼ / ▲ ボタンでレンズのズームを調整します。

13 VOL/D-ZOOM + / - ボタン

CTL ボタンと同時に押すと、画面の拡大・縮小（もとに戻す）をします。

14 DEFAULT ボタン

（本機では使用しません）

15 SHUTTER /OSD OPEN (□) /CLOSE (X) ボタン

CLOSE ボタンを押すと、光源が消灯して投写光が一時的に消えます。OPEN ボタンを押すと戻ります。

CTL ボタンと同時に CLOSE ボタンを押すと、オンスクリーン表示を消します（オンスクリーンミュート）。CTL ボタンと同時に OPEN ボタンを押すと戻ります。

16 LIGHT ボタン

押すごとに基準ライトモードを切り替えます。

17 Geometric. ボタン

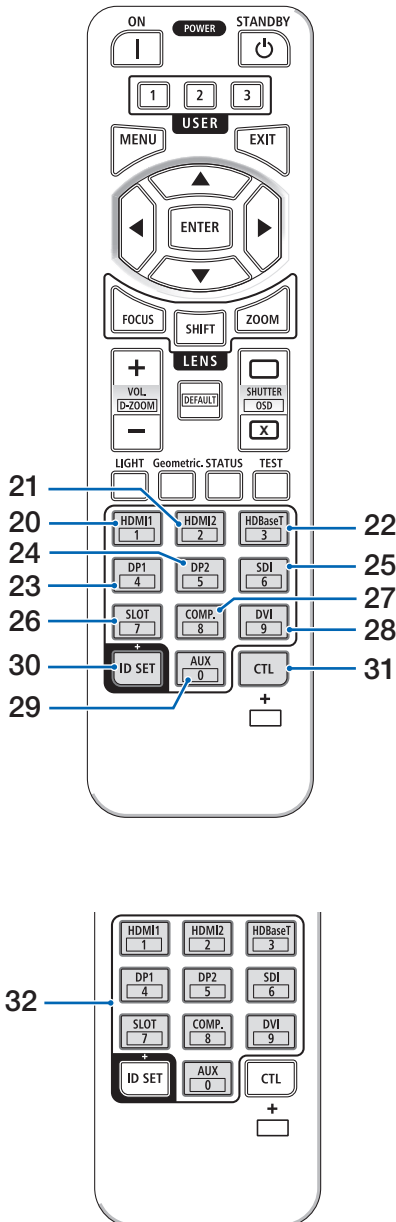
オンスクリーンメニューの「表示」を表示します。

18 STATUS ボタン

オンスクリーンメニューの「情報」を表示します。

19 TEST ボタン

テストパターンを表示します。



20 HDMI1 ボタン

HDMI1 入力を選択します。

21 HDMI2 ボタン

HDMI2 入力を選択します。

22 HDBaseT ボタン

HDBaseT 入力を選択します。

23 DP1 ボタン

DisplayPort1 入力を選択します。

24 DP2 ボタン

DisplayPort2 入力を選択します。

25 SDI ボタン

SDI 入力を選択します。

26 SLOTT ボタン

(本機では使用しません)

27 COMP. ボタン

(本機では使用しません)

28 DVI ボタン

(本機では使用しません)

29 AUX ボタン

(本機では使用しません。)

30 ID SET ボタン

複数台のプロジェクターを本機のリモコンで個別に操作するときのコントロール ID 設定に使用します。

31 CTL ボタン

他のボタンと併用するための複合機能ボタンです。

32 数字 (0 ~ 9) 入力ボタン

複数台のプロジェクターを本機のリモコンで個別に操作する場合の ID 入力に使用します (コントロール ID 設定)。

ID SET ボタンを押したまま 0 ボタンを押すと、コントロール ID 設定を解除します。

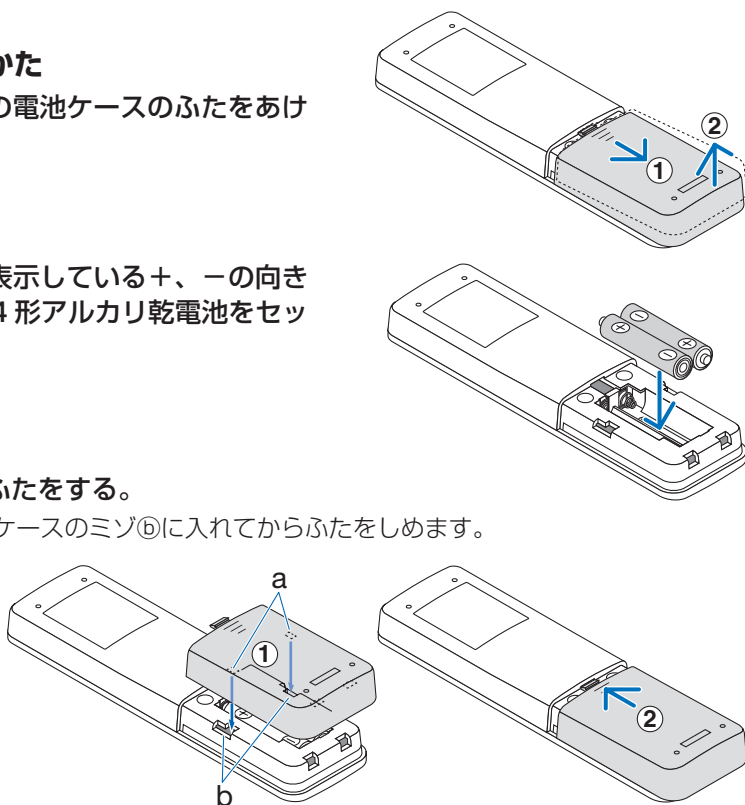
[注意]

- リモコンの使用上の注意は 23 ページをご覧ください。

● 乾電池の入れかた

1. リモコン裏面の電池ケースのふたをあける。
2. ケース内部に表示している＋、－の向きに合わせて単 4 形アルカリ乾電池をセットする。
3. もとどおりにふたをする。

ふたのツメ③をケースのミゾ④に入れてからふたをしめます。

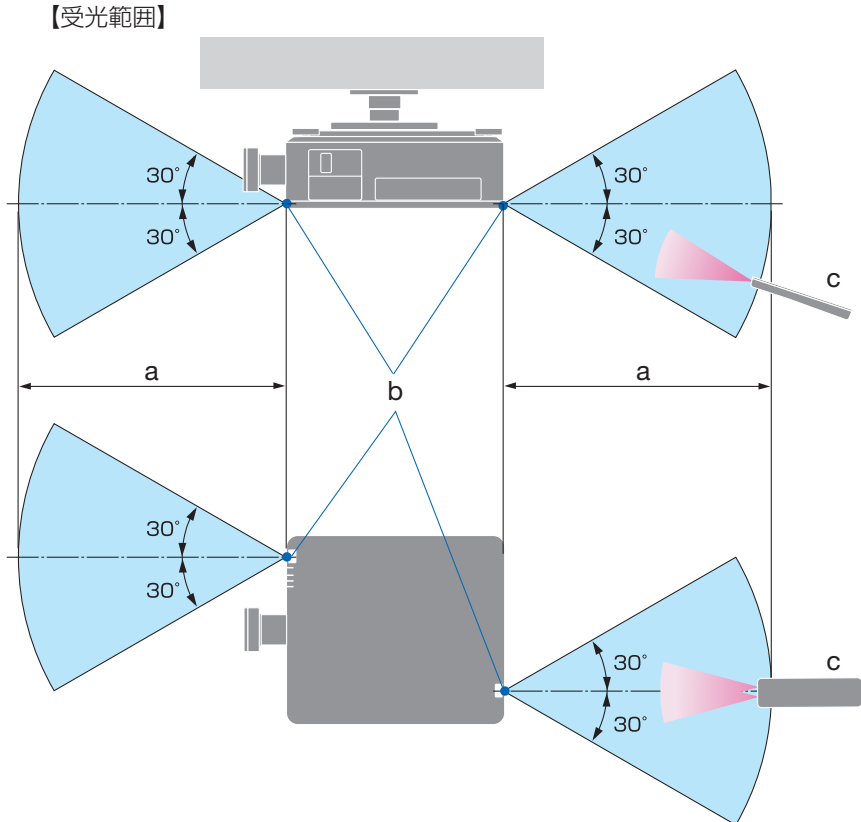


[注意]

- 乾電池を交換するときは、2 本とも同じ種類の単 4 形アルカリ乾電池をお買い求めください。

●リモコンの有効範囲

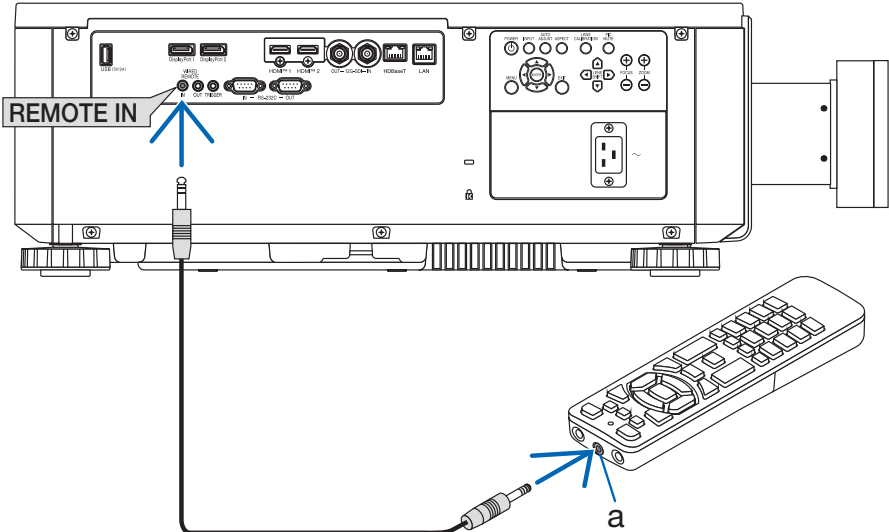
リモコン送信部を本体のリモコン受光部に向けてリモコンを操作してください。おおよそ次の範囲内でリモコンの信号が受信できます。



(注) 有効範囲のイメージを表した図のため実際とは多少異なります。

●リモコンケーブルを使用する

本体のリモコン受光部とリモコンの間に遮へい物などがあるときや、受光範囲外でリモコン操作するときは、リモコンケーブルを使用して、本体とリモコンを接続してください。



a: リモコンケーブル接続端子

- ・リモコンケーブルは、市販のΦ 3.5 ステレオミニプラグ付き（抵抗なし）を使用してください。
- ・REMOTE 端子にリモコンケーブルが接続されているときは、赤外線でのリモコン操作はできません。
- ・REMOTE 端子からリモコンへ電源は供給されません。有線を使用する場合でも、リモコンに乾電池を入れてください。

2. 映像を投写する（基本操作）

2-1. 映像を投写する流れ

ステップ 1	コンピューターと接続する／電源コードを接続する (→ 次ページ)
---------------	--

ステップ 2	本機の電源を入れる (→ 47 ページ)
---------------	---------------------------------------

ステップ 3	入力信号を選択する (→ 49 ページ)
---------------	---------------------------------------

ステップ 4	投写画面の位置と大きさを調整する (→ 50 ページ)
---------------	--

ステップ 5	プレゼンテーションする
---------------	-------------

ステップ 6	本機の電源を切る (→ 57 ページ)
---------------	--------------------------------------

ステップ 7	あとかたづけ (→ 58 ページ)
---------------	------------------------------------

2-2. コンピューターと接続する／電源コードを接続する

1. コンピューターと接続する

ここでは、コンピューターとの基本的な接続を説明します。

コンピューターの HDMI 出力端子と本機の HDMI1 入力端子（HDMI1 IN）または HDMI2 入力端子（HDMI2 IN）を HDMI ケーブルで接続します。

2. 電源コードを接続する



注意

- 本機は電源コードのアース端子をアースに接続することを前提に設計されている 3 芯プラグ機器です。機器の安全確保のため、電源コードは、3 芯コンセントに直接接続し、機器のアースを確実に接続してご使用ください。アースを接続しないと感電するおそれがあります。2 芯プラグへの変換アダプターは使用しないでください。
- プロジェクターとコンピューター（信号源）は必ず同じアースに接続してください。
プロジェクターとコンピューター（信号源）を離れた場所のアースに接続すると、アース電位の変動により、発火・発煙の原因となることがあります。
- アース工事は専門業者にご依頼ください。
- 電源コードを AC IN 端子および 3 芯コンセントに接続するときは、コネクタやプラグを奥までしっかり差し込んでください。
電源コードの接続がゆるむと、火災・感電の原因となるおそれがあります。

添付の電源コードを使って、本機をコンセントに接続してください。

AC100V の場合

- ① AC100 V 用電源コードのコネクタを本機の AC IN 端子に差し込む。
- ② AC100 V 用電源コードのプラグを AC100V の 3 芯コンセント（アース工事済み）に差し込む。

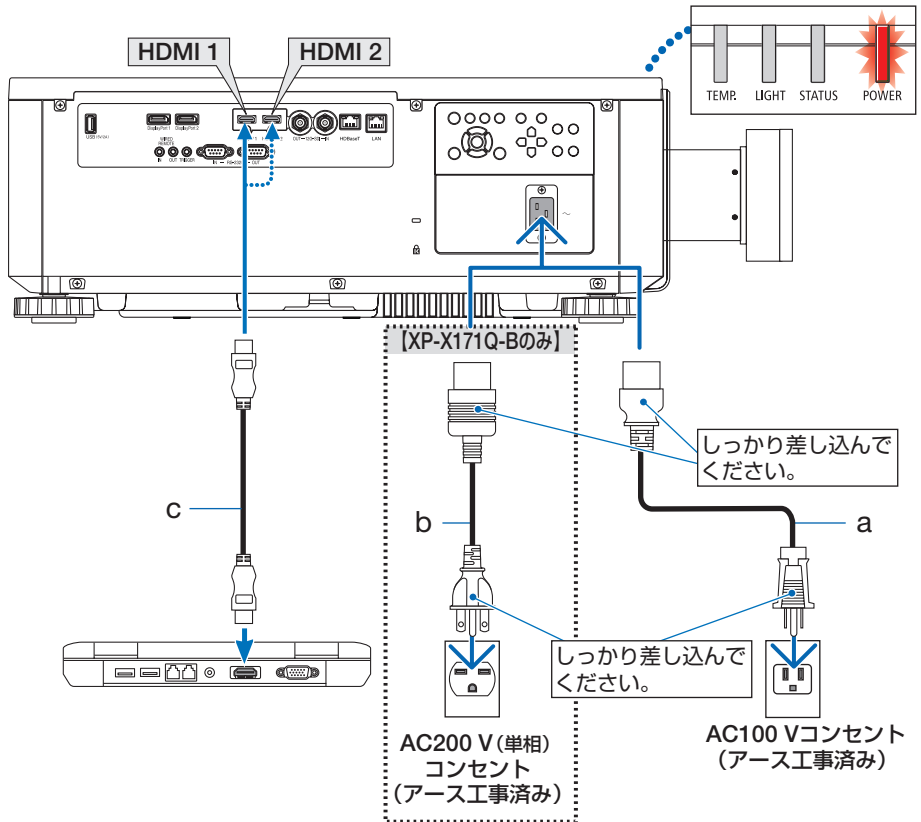
【XP-X171Q-B のみ】 AC200 V の場合

- ① AC200 V 用電源コードのコネクタを本機の AC IN 端子に差し込む。
- ② AC200 V 用電源コードのプラグを AC200 V (単相) の 3 芯コンセント (アース工事済み) に差し込む。

【重要】

- 三相 200V の電源には接続しないでください。故障の原因となります。

電源コードを接続すると、本機の電源インジケーターが点灯します。



a : AC100 V 用電源コード（添付） /

b : 【XP-X171Q-B のみ】 AC200 V 用電源コード（添付） / c : HDMI ケーブル（市販）

- プレミアムハイスピード対応の HDMI ケーブルを使用してください。



注意

電源を切ったときは、一時的に本体が高温になることがあります。
取り扱いに注意してください。

2-3. 本機の電源を入れる

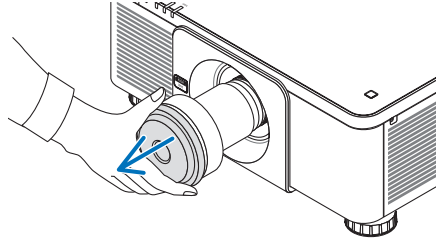


警告

プロジェクターは強い光を投写します。

電源を入れる際は、プロジェクター本体の側面または背面（侵入禁止領域の外）で操作してください。また、投写範囲内にレンズを見ている人がいないことを確認してください。

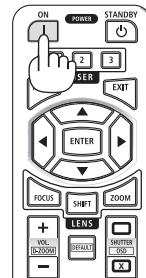
1. レンズキャップを取り外す。



2. POWER ON ボタンを押す。

電源インジケータが赤色の点灯から緑色に変わり点滅し始めます。その後、スクリーンに映像が投写されます。

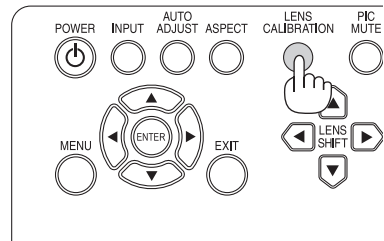
- ・ 本体で操作する場合は、**④** ボタンを押します。
- ・ 信号が入力されていないときは、青い画面（ブルーバック）が表示されます（工場出荷時のメニュー設定時）。
- ・ 映像がぼやけている場合は、画面のフォーカスを合わせてください。（→ 53 ページ）



- ・ 別売のレンズユニットを本機に取り付けたとき、またはレンズユニットを交換したときは、本体の LENS CALIBRATION ボタンを押して、「キャリブレーション」を実行してください。

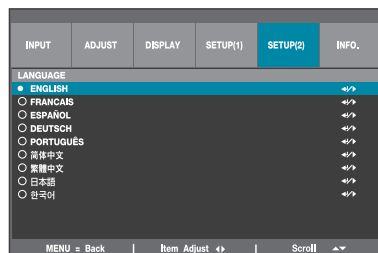
キャリブレーションにより、レンズの調整範囲を校正します。

また、レンズシフトの動作に異常が発生したときも、「キャリブレーション」を実行してください。

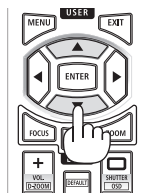


- ・ レンズユニット XP-57UL は、同梱のサポートキットを使ってプロジェクター本体に固定する必要があります。
キャリブレーションは、サポートキットを外した状態で実行してください。固定したままキャリブレーションを実行すると、故障の原因となります。
詳しくは、XP-57UL の設置説明書をご覧ください。

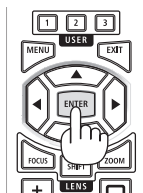
- ・ ご購入後はじめて電源を入れたときは LANGUAGE 画面が表示されます。次のように操作して「日本語」を選択してください。
- ・ 誤って「日本語」以外を選択した場合は、オンスクリーンメニューを表示して「言語」を変更することができます。



- ① ▼ / ▲ ボタンを押して、カーソルを「日本語」に合わせる。



- ② ENTER ボタンを押す。
オンスクリーンメニューの表示が日本語に設定され、オンスクリーンメニューが消えます。



[注意]

- 本機の電源が入っている間は、レンズからレンズキャップを外しておいてください。高温になりレンズキャップが変形します。
- 内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待って（内部の温度が下がって）から電源を入れてください。
- 電源インジケータが緑色で短い点滅をしているときは STANDBY ボタンを押しても電源は切れません。
- 本機の動作温度内であっても、スリープ状態が長く続いた場合などに内部が高温になることがあります。このときに電源を入れると、まず冷却ファンのみが動作して、しばらくたってから映像が投写されます。

2-4. 入力信号を選択する

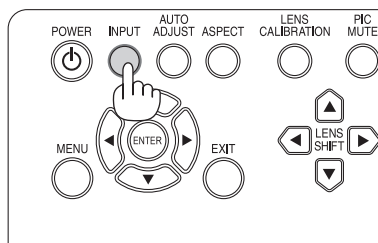
本体の INPUT ボタンを押して選択する

1. 本機に接続しているコンピューターやブルーレイプレーヤーなどの電源を入れる。

ブルーレイプレーヤーなどの映像を投写するときは、再生（PLAY）操作をしてください。

2. INPUT ボタンを押す。

押すごとに、HDMI1 → HDMI2 → DisplayPort 1 → DisplayPort2 → HDBaseT → SDI の順で入力端子が切り替わります。

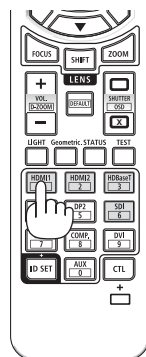


リモコンのダイレクトボタンを押して選択する

1. 本機に接続しているコンピューターやブルーレイプレーヤーなどの電源を入れる。

ブルーレイプレーヤーなどの映像を投写するときは、再生（PLAY）操作をしてください。

2. リモコンの HDMI1 または HDMI2 ボタンを押す。

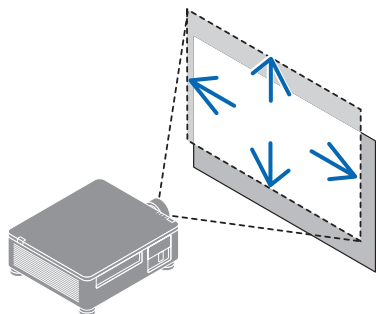


2-5. 投写画面の位置と大きさを調整する

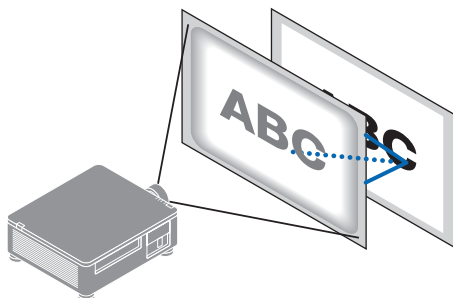
レンズシフトやチルトフット、ズーム、フォーカスなどを操作して、投写画面の位置や大きさを調整します。

最適な投写状態になるまで、これらの調整を繰り返してください。

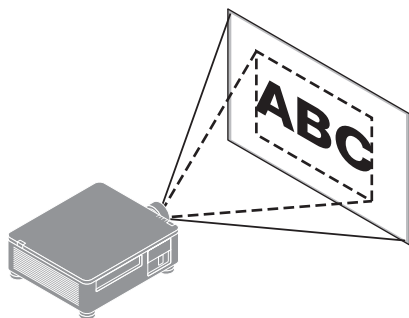
投写画面の上下・左右位置の調整
【レンズシフト】（→[次ページ](#)）



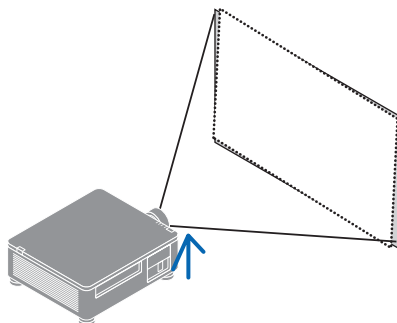
投写画面のフォーカス調整
【フォーカス】（→[53 ページ](#)）



投写画面の大きさの調整
【ズーム】（→[55 ページ](#)）



投写画面の傾き調整
【チルトフット】（→[56 ページ](#)）



※ここでは、本機に接続しているケーブル類を省略したイラストにしています。

【注意】

- テストパターンを表示中は、リモコンの SHIFT ボタン、FOCUS ボタン、ZOOM ボタンが動作しません。リモコンを使用する場合は、MENU ボタンを押して、オンスクリーンメニューの表示→レンズ→レンズ制御を表示して調整してください。

投写画面の位置の調整（レンズシフト）



注意

- プロジェクターの後ろまたは横から調整してください。前面で調整すると強い光が目に入り、視力障害の原因となります。
- レンズシフト動作中は、レンズユニット取り付け部の周囲に手を近づけないでください。
キャビネットとレンズユニットの隙間に指を挟むおそれがあります。

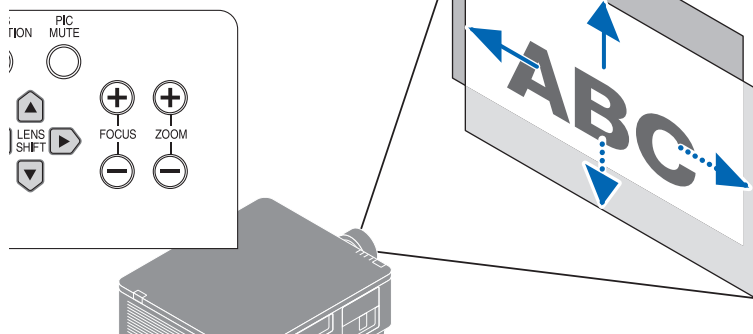
[注意]

- レンズユニット XP-57UL は、同梱のサポートキットを使ってプロジェクター本体に固定する必要があります。サポートキットのネジをゆるめた状態で、レンズシフトで投写画面の位置を微調整できます。
- サポートキットで固定したままレンズシフトの操作をしないでください。故障の原因となります。
- 投写画面の位置を大きく動かす場合は、サポートキットを外してください。詳しくは、XP-57UL の設置説明書をご覧ください。

●本体で調整する

1. LENS SHIFT ▼▲◀▶ ボタンを押す。

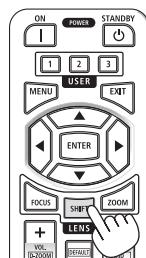
矢印の方向に投写画面が移動します。



●リモコンで調整する

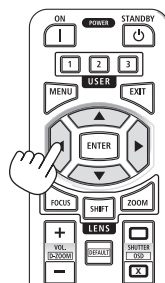
1. SHIFT ボタンを押す。

レンズ制御（シフト）画面が表示されます。



2. ▼▲◀▶ボタンを押す。

矢印の方向に投写画面が移動します。



レンズシフトをホームポジションに戻す場合

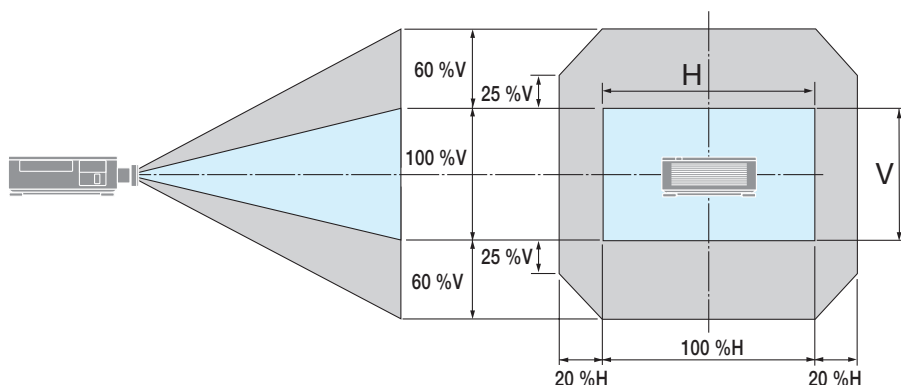
LENS CALIBRATION ボタンを押すと本機のレンズ位置がホームポジション（ほぼ中心位置）に戻ります。

[注意]

- レンズシフトを斜め方向へ最大にすると、画面周辺が暗くなったり、影が出たりします。

[参考]

- 下図はレンズユニット XP-61ZL のレンズシフト調整範囲（投写方式：デスク／フロント）を示しています。



記号の意味：Vは垂直（投写画面の高さ）、Hは水平（投写画面の幅）を表し、レンズシフト範囲を高さおよび幅の比率で表しています。

投写画面のフォーカス合わせ

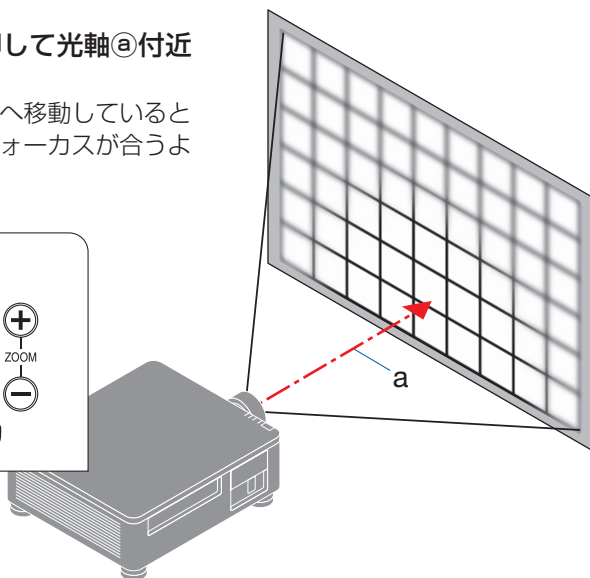
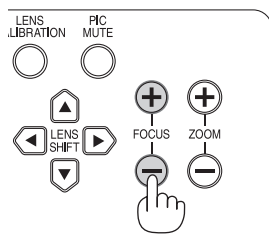
フォーカスは、テストパターンを投写した状態で 30 分以上経過したのちに調整することをおすすめします。

① 光軸付近のフォーカスを合わせる＜電動フォーカス＞

●本体で操作する

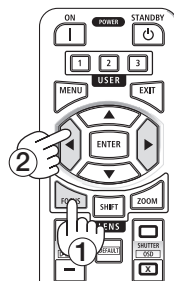
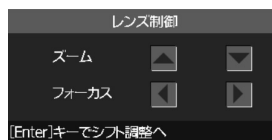
1. FOCUS + / - ボタンを押して光軸③付近のフォーカスを合わせる。

※ 図はレンズシフトを上方向へ移動しているときの例です。画面下側のフォーカスが合うように調整します。



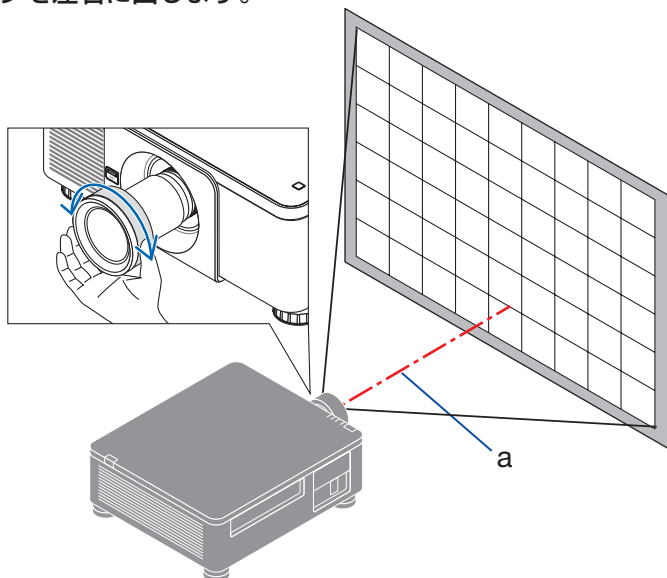
●リモコンで調整する

1. FOCUS または ZOOM ボタンを押す。
レンズ制御（ズーム／フォーカス）画面が表示されます。
2. ◀ / ▶ ボタンを押して光軸③付近のフォーカスを合わせる。



② 画面周辺のフォーカスを合わせる。＜手動フォーカス＞

1. 周辺フォーカスリングを左右に回します。

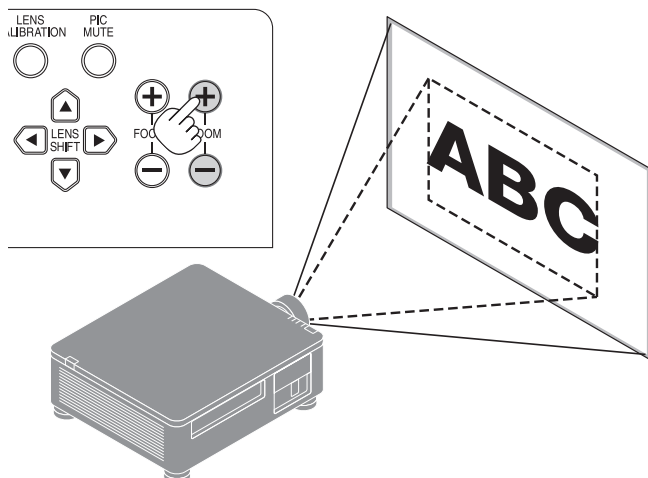


- ③ 画面全体のフォーカスが合うまで、手順①と②を繰り返す。

投写画面の大きさの調整（ズーム）

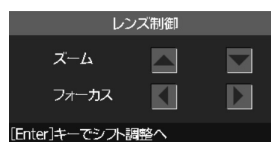
●本体で調整する

1. ZOOM + / - ボタンを押してズーム（画面の大きさ）を調整する。

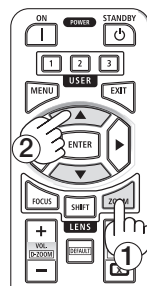


●リモコンで調整する

1. ZOOM または FOCUS ボタンを押す。
レンズ制御（ズーム／フォーカス）画面が表示されます。



▲/▼ボタンを押して、ズームを調整します。



投写画面の高低と左右の傾き調整（チルトフット）

1. 4箇所のチルトフット④を回して調整する。

チルトフットを回すとチルトフットが伸縮します。

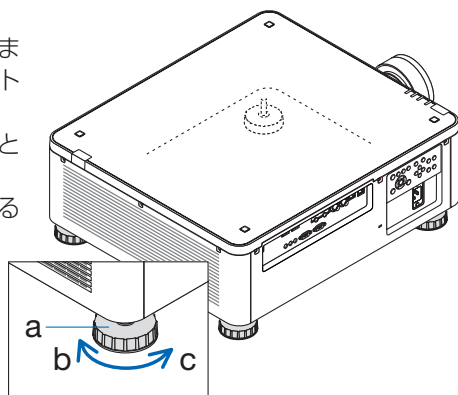
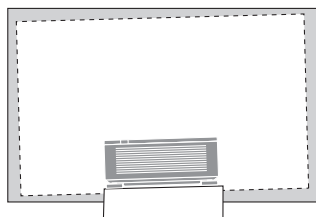
【投写画面の高低調整】

前方（2箇所）または後方（2箇所）のチルトフットを回して高さ調整をします。

【投写画面の傾き調整】

左右に傾いているときは、左側（2箇所）または右側（2箇所）どちらかのチルトフットを回して水平に調整します。

- ・チルトフットは、最大 10mm 伸ばすことができます。
- ・チルトフットにより、本機を最大 1° 傾けることができます。



a：チルトフット / b：伸べる / c：縮む

【注意】

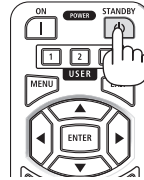
- チルトフットは 10 mm 以上伸ばさないでください。10 mm を超えるとチルトフットの取り付け部分が不安定になり、チルトフットが本体から外れます。
- チルトフットを調整する場合、前後 2 箇所のアジャスターを同時に伸ばし、荷重が均等にかかるようにしてください。いずれか 1 箇所のみを調整すると、荷重が均等にかからず、アジャスターが故障する原因となります。
- チルトフットは、本機の投写角度調整以外の用途には使用しないでください。チルトフット部分を持って運んだり、壁に掛けて使用するなどの誤った取り扱いをすると、故障の原因となります。

2-6. 本機の電源を切る

1. POWER STANDBY ボタンを押す。

画面に電源オフ確認メッセージが表示されます。

- ・ 本体で操作する場合は、 ボタンを押します。



プロジェクターを待機状態にしますか？
もう一度押す

2. もう一度 POWER STANDBY ボタンを押す。

光源が消灯し、電源が切れます。

- ・ 本体で操作する場合は、もう一度  ボタンを押します。
- ・ 電源を切らない場合は、EXIT ボタンを押します。



注意

投写中および冷却ファン回転中に AC 電源を切断したときは、一時的に本体が高温になることがあります。取り扱いに注意してください。

[注意]

- 電源インジケーターが緑色で短い点滅をしているときは電源を切る操作をしても電源は切れません。
- 投写中は、本機やコンセントから電源コードを抜かないでください。本機の AC IN 端子や電源プラグの接触部分が劣化するおそれがあります。投写中に AC 電源を切断する場合は、ブレーカーなどを利用してください。
- 各種の調整をして調整画面を閉じたあと約 10 秒間は、AC 電源を切断しないでください。この間に AC 電源を切断すると、調整値が初期化されることがあります。

2-7. あとかたづけ

1. 電源コードを取り外す。
2. 各種信号ケーブルを取り外す。
3. レンズにレンズキャップを取り付ける。
4. 移動させるとき、チルトフットを伸ばしていたら、もとに戻す。

3. 付 録

3-1. 仕 様

形名			XP-X171Q-B	XP-X141Q-B
方式			1 チップ DLP 方式	
表示解像度			4K (3840 ドット× 2400 ライン) 9,216,000 画素	
主要 部 品 仕 様	DMD パネル	サイズ	0.8 型 (20.3 mm) アスペクト比 16:10	
		画素数 ^{(*)1}	2,304,000 画素 (1920 ドット× 1200 ライン)	
	投写レンズ	投写レンズ仕様 (別売) をご覧ください。(→ 61 ページ)		
		ズーム	電動	
		フォーカス	電動	
		レンズシフト	電動	
	光源	レーザーダイオード+蛍光体		
明るさ ^{(*)2}			16500 lm ^{(*)3} 17000 lm (センター) AC 100 V 時 14000 lm ^{(*)3} 14400 lm (センター)	13500 lm ^{(*)3} 13900 lm (センター)
画面サイズ (投写距離)			50 ～ 600 型 (投写距離はレンズユニットにより異なります)	
色再現性			10 ビット カラープロセッシング (約 10 億 7000 万色)	
走査周波数		水平	15 kHz、24 ～ 153 kHz	
		垂直	24, 25, 30, 48 Hz、50 ～ 85 Hz、100, 120 Hz	
入 出 力 端 子	HDMI 1/2	映像入力	タイプ A × 2 Deep Color、LipSync、HDCP ^{(*)4} 、4K	
	HDBaseT	映像入力	RJ-45 × 1、 Deep Color、LipSync、HDCP ^{(*)4} 、4K	
		制御	100BASE-TX、PJLink class1	
	SDI IN	映像入力	BNC × 1 12G	
	SDI OUT	映像入力	BNC × 1 12G	
	DisplayPort 1/2	映像入力	DisplayPort × 2 Deep Color、LipSync、HDCP ^{(*)4} , 4K	
USB			USB タイプ A × 1、電源供給 5.0V/2.0A	
制 御 入 出 力 端 子	LAN		RJ-45 × 1、10BASE-T/100BASE-TX、 PJLink class1	
	RS-232C IN		D-Sub 9 ピン× 1	
	RS-232C OUT		D-Sub 9 ピン× 1	
	WIRED REMOTE IN		ステレオミニジャック× 1	
	WIRED REMOTE OUT		ステレオミニジャック× 1	
TRIGGER			ステレオミニジャック× 1	
スピーカー			なし	

形名		XP-X171Q-B	XP-X141Q-B
使用環境 ^(*5)		動作温度 : 0 ~ 45 ℃	
		動作湿度 : 20 ~ 80 % (ただし、結露しないこと)	
		保存温度 : - 10 ~ 60 ℃	
		保存湿度 : 20 ~ 80 % (ただし、結露しないこと)	
		動作高度 : 0 ~ 3000 m (1499 ~ 3000 m はファンモード「強」)	
電源		AC 100 ~ 240 V 50/60 Hz	AC 100 V 50/60 Hz
消費電力		1080 W (AC 100 ~ 120 V) 1290 W (AC 200 ~ 240 V)	1080 W
消費電力 (スタンバイ時)	ネットワーク 有効時	2.0 W	
	ネットワーク 無効時	0.5 W	
定格入力電流		12.0 A (AC 100 ~ 120 V) 6.0 A (AC 200 ~ 240 V)	10.0 A
外形寸法		500 (幅) × 211 (高) × 577 (奥行) mm (突起部含まず) 500 (幅) × 216 (高) × 583 (奥行) mm (突起部含む)	
質量		29.7 kg (レンズユニット含まず)	29.4 kg (レンズユニット含まず)

(*1) : 有効画素数は 99.99 % です。

(*2) : 別売のレンズユニット XP-61ZL を装着し、基準ライトモードが「ノーマル」で基準ライト調整が「100」(AC 100 V 時は「85」)、プリセットが「スタンダード」のときの明るさです。ライト調整をすると明るさが低下します。また、プリセットで他のモードを選択すると明るさが多少低下します。

(*3) : JIS X6911:2021 データプロジェクターの仕様書様式にそって記載しています。測定方法、測定条件については、附属書 B に基づいています。

(*4) : HDCP/HDCP 技術とは？

HDCP とは "High-bandwidth Digital Content Protection" の略称で、HDMI を経由して送信されるデジタルコンテンツの不正コピー防止を目的とする著作権保護用システムのことをいいます。HDCP の規格は、Digital Content Protection, LLC という団体によって、策定・管理されています。

本機の HDMI 1 および HDMI2 入力端子、DisplayPort 1 および DisplayPort 2 入力端子、HDBaseT ポートは、HDCP 技術を用いてコピープロテクトされているデジタルコンテンツを投写することができます。

ただし、HDCP の規格が変更された場合などは、プロジェクターが故障していなくても、HDMI 1 および HDMI2 入力端子、DisplayPort 1 および DisplayPort 2 入力端子、HDBaseT ポートの映像が表示されないことがあります。

映像 : DeepColor (ディープカラー : 色深度) : 8/10/12 ビット、LipSync

HDMI : HDCP 2.3/1.4 に対応

HDBaseT : HDCP 2.3/1.4 に対応

DisplayPort : HDCP 1.3 に対応

(*5) : 使用環境の温度により、本機の保護機能が働きます。

この仕様・意匠はお断りなく変更することがあります。

●投写レンズ仕様（別売）

XP-57UL	電動レンズシフト、電動ズーム、電動フォーカス (投写比 0.31 ～ 0.33 : 1、F 2.05 ～ 2.11、 $f=5.81 \sim 6.17$ mm)
XP-58ZL	電動レンズシフト、電動ズーム、電動フォーカス (投写比 0.55 ～ 0.75 : 1、F 2.04 ～ 2.35、 $f=10.03 \sim 13.60$ mm)
XP-59ZL	電動レンズシフト、電動ズーム、電動フォーカス (投写比 0.74 ～ 1.08 : 1、F 2.02 ～ 2.33、 $f=13.47 \sim 19.67$ mm)
XP-60ZL	電動レンズシフト、電動ズーム、電動フォーカス (投写比 1.05 ～ 1.41 : 1、F 1.90 ～ 2.08、 $f=18.78 \sim 25.30$ mm)
XP-61ZL	電動レンズシフト、電動ズーム、電動フォーカス (投写比 1.40 ～ 2.11 : 1、F 1.80 ～ 2.11、 $f=25.04 \sim 37.57$ mm)
XP-62ZL	電動レンズシフト、電動ズーム、電動フォーカス (投写比 2.10 ～ 4.00 : 1、F 1.90 ～ 2.44、 $f=37.23 \sim 70.60$ mm)

- ・ 投写比は 100 型の画面を投写する場合の値です。
- ・ レンズユニット XP-57UL は、同梱のサポートキットを使ってプロジェクター本体に固定する必要があります。サポートキットのネジをゆるめた状態で、レンズシフトで投写画面の位置を微調整できます。
- ・ サポートキットで固定したままレンズシフトの操作をしないでください。故障の原因となります。
- ・ 投写画面の位置を大きく動かす場合は、サポートキットを外してください。詳しくは、XP-57UL の設置説明書をご覧ください。

3-2. 故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度接続や設定および操作に間違いがないかご確認ください。それでもなお異常なときはお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

現象と確認事項

このようなとき	確認してください
電源が入らない	電源プラグがコンセントから抜けていませんか。
	内部温度が高くなっていませんか。内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待ってから電源を入れてください。
	上記の電源コードの接続、本機の内部温度上昇などが原因として考えられない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。そして約5分間待って再び電源プラグをコンセントに接続してください。
使用中に電源が切れる	オンスクリーンメニューのオートパワーオフを「オン（時間を選択）」にしていますか。
映像が出ない	接続している入力を選んでいますか。本体の入力切替ボタンまたはリモコンの入力を選択するボタンを再度押してください。
	入力端子のケーブルが正しく接続されていますか。
	調整のコントラスト、明るさが最小になっていませんか。
	SHUTTER CLOSE ボタンが押されていませんか。
	入力信号が対応している解像度、周波数になっていますか。
	HDMI1 入力端子および HDMI2 入力端子の映像がうまく投写できない場合は次の点をご確認ください。 お使いのコンピューターに内蔵されているグラフィックボードのドライバーを再インストールください。または最新のバージョンアップを適用してください。 再インストール、最新のバージョンアップに関しては、コンピューター、グラフィックボードの取扱説明書を参照いただくか、コンピューターのサポート窓口にお問い合わせください。 なお、最新ドライバーや最新 OS は、お客様の責任においてインストールしていただきますようお願いいたします。これらインストールに起因するトラブル、不具合については一切の責任を負わないものとします。
	HDBaseT 対応伝送機器によっては信号が対応していない場合があります。また IR、RS-232C が対応できない場合があります。

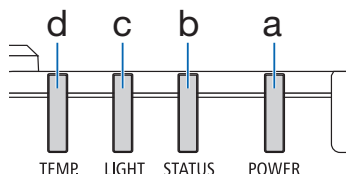
次ページに続く

このようなとき	確認してください
映像が出ない	各設定が正しく調整・設定されていますか。
	それでも解決しない場合は、リセットをしてください。
	本機の動作温度内であっても、スリープ状態が長く続いた場合などに内部が高温になることがあります。このときに電源を入れると、冷却ファンのみが動作して、映像が投写されるまでに時間がかかります。
	しばらくお待ちください。
映像が歪む	正しく設置されていますか。
	台形状に歪む場合は台形補正で調整してください。
映像がぼやける	レンズのフォーカスは合っていますか。
	投写画面と本機が正しい角度で設置されていますか。
	投写距離がフォーカスの範囲を超えていませんか。
	レンズシフトの移動量が保証範囲を超えていませんか
	レンズなどが結露していませんか 気温が低い所に保管しておいて温かい所で電源を入れるとレンズや内部の光学部が結露することがあります。このような場合は結露がなくなるまで数分お待ちください。
映像が乱れる	本機に接続している信号ケーブルが断線していませんか。
映像が突然暗くなった	室温が高いと、本機の保護機能が働いて、一時的に輝度（明るさ）が下がることがあります。 室温を下げてください。
水平または垂直方向に映像がずれて正常に表示されない	入力信号が対応している解像度、周波数になっていますか。
リモコンで操作できない	リモコンのリモコン送信部を本体のリモコン受光部に向けていますか。
	リモコンの乾電池が消耗していませんか。新しい乾電池と交換してください。
	リモコンと本体のリモコン受光部との間に障害物はありませんか。
	リモコンの有効範囲を超えていませんか。
	コントロール ID 機能を設定している場合、リモコンの ID 番号とプロジェクターの ID 番号は一致していますか。
オンスクリーンメニューが表示されない	オンスクリーンミュートになっていませんか。
	リモコンの CTL ボタンと OSD OPEN ボタンを同時に押すと解除できます。

このようなとき	確認してください
インジケーターが点滅する	インジケーター表示一覧をご覧ください。
本機の動作が不安定になる	電源プラグをコンセントから抜いてください。そして約5分間待って再び電源プラグをコンセントに接続してください。

3-3. インジケータ表示一覧

本体操作部のインジケータが点灯、点滅しているときは、以下の説明を確認してください。



a : 電源インジケータ
b : ステータスインジケータ
c : ライトインジケータ
d : 温度インジケータ

●通常のインジケータ表示

POWER	STATUS	LIGHT	TEMP.	本機の状態
 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	主電源が切れている
 オレンジ色 (点滅 ^{*1})	 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	スタンバイ状態へ移行中 本体冷却中
 赤色 (点灯)	 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	スタンバイ状態 (ネットワークが無効)
 オレンジ色 (点灯)	 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	スタンバイ状態 (ネットワークが有効)
 緑色 (点灯)	 (消灯)	 緑色 (点灯)	 (消灯)	電源オン状態
 緑色 (点灯)	 (消灯)	 緑色 (点滅 ^{*1})	 (消灯)	電源オン状態 (ファンモードが「強」)
(各状態)	 オレンジ色 (2 回周期 点滅 ^{*2})	(各状態)	 (消灯)	レンズキャリブレーション実行要求 (画面にレンズキャリブレーション実行要求のメッセージを表示)
 緑色 (点灯)	 緑色 (2 回周期 点滅 ^{*2})	(各状態)	 (消灯)	レンズキャリブレーション中
 緑色 (点灯)	(各状態)	 緑色 (点滅 ^{*3})	 (消灯)	レンズシャッターが「閉」の状態 (光源が消灯)
 緑色 (点滅 ^{*1})	 (消灯)	 (消灯)	 (消灯)	電源オン準備中

※1 0.5 秒点灯 / 0.5 秒消灯のくり返し

※2 0.5 秒点灯 / 0.5 秒消灯 / 0.5 秒点灯 / 2 秒消灯のくり返し

※3 0.5 秒点灯 / 5 秒消灯のくり返し

●異常時のインジケータ表示

POWER	STATUS	LIGHT	TEMP.	本機の状態	処置方法
 緑色 (点灯)	 (消灯)	 オレンジ色 (点灯)	 (消灯)	周囲高温	周囲の温度が高くなっているため、保護機能が働いています。室温を下げてください。
 緑色 (点灯)	 (消灯)	 (消灯)	 赤色 (点滅 ^{*1})	温度エラー	室温が、本機の動作温度 (0 ~ 45℃) を超えています。適切な室温に調節してください。また、排気口がふさがれていないか、吸気口の近くに他のプロジェクターの排気口がないか確認してください。
(各状態)	 赤色 (点滅 ^{*4})	 (消灯)	 (消灯)	レンズ未装着	レンズが正しく取り付けられているか確認してください。
(各状態)	 赤色 (上記以外の点滅、または点灯)	(各状態)	 (消灯)	修理が必要な異常発生中	お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口へ修理を依頼してください。その際に、インジケータの点灯状態をお知らせください。
	(各状態)	 赤色 (点滅 ^{*2*4})			

※1 0.5 秒点灯 / 0.5 秒消灯のくり返し

※2 0.5 秒点灯 / 0.5 秒消灯 / 0.5 秒点灯 / 2 秒消灯のくり返し

※4 0.5 秒点灯 / 2 秒消灯のくり返し

●温度プロテクターが働いたときは

本機内部の温度が異常に高くなると、温度インジケータが赤色で短く点滅します。その後、本機の温度プロテクター機能が働いて、本機の電源が切れることがあります。このようなときは、以下の処置をしてください。

- ・電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・周囲の温度が高い場所に置いて使用しているときは、涼しい場所に設置しなおしてください。
- ・通風口にほこりがたまっていたら、清掃してください。
- ・本機内部の温度が下がるまで、約 1 時間そのままにしてください。

3-4. レンズユニット（別売）の取り付けかた

本機は、6 種類の別売レンズユニットが使用できます。ここでは XP-61ZL で説明します。他のレンズユニットも同じ方法で取り付けてください。

レンズユニットを本機に取り付けたとき、またはレンズユニットを交換したときは、本体の LENS CALIBRATION ボタンを押して、「レンズキャリブレーション」を実行してください。

レンズキャリブレーションを実行することにより、レンズユニット及びレンズシフトの調整範囲を校正します。



警告

レンズユニットの取り付けや取り外しは（1）電源を切る操作をし、冷却ファンが停止するのを待つ、（2）電源プラグをコンセントから抜いて、本体が十分冷えてから着脱してください。投写状態で脱着すると目の障害、感電やけどの原因になります。

[重要]

- プロジェクターおよびレンズユニットは精密部品でできています。衝撃を与えたり、無理な力を加えたりしないでください。
- 別売のレンズユニットを装着しているときに本機を移動する際はいったんレンズユニットを取り外してください。移動する際にレンズユニットに衝撃を与えると、レンズユニットおよびレンズシフト機構が破損するおそれがあります。
- 本機からレンズユニットを取り外す際は、電源を切る前にレンズ位置をホームポジションに戻してください。ホームポジションに戻していないと、プロジェクターとレンズユニットの隙間が狭くなり、取り外しおよび取り付けの障害になります。
- 作業中、レンズ面には絶対に手を触れないでください。
- レンズ面にゴミや油などが付着しないよう、また、傷が付かないように十分ご注意ください。
- 作業は平らな場所で、傷が付かないように布などを敷いてください。
- 長時間レンズユニットを外しておく場合は、防塵キャップを本体に取り付け、ほこりやゴミが内部に入らないようにしてください。
- XP-57UL を使用する場合の注意事項
 - ・ XP-57UL は、本機のファームウェアバージョンが下記の場合に使用できます。
 - ・ オンスクリーンメニューの「情報」を表示して、「コントロールモジュール」の番号を確認してください。バージョンが下記の番号以前の場合は、お買いあげの販売店へファームウェアアップデートを依頼してください。
 - XP-X171Q-B: MM05-LDxx (MM の次の数字が 05 以降)
 - XP-X141Q-B: MM10-LDxx (MM の次の数字が 10 以降)
 - ・ XP-57UL を取り付け後は、必ず同梱のサポートキットを使って、プロジェクター本体とレンズユニットを固定してください。
 - ・ 固定したままキャリブレーションを実行しないでください。故障の原因となります。
 - ・ 詳しくは、XP-57UL の設置説明書をご覧ください。

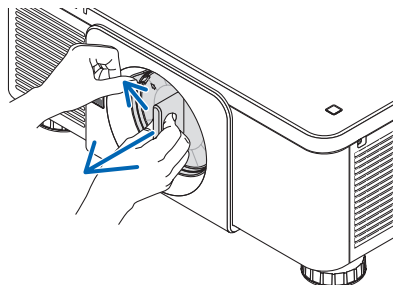
用意するもの

ボールポイント 6 角レンチドライバー（対辺 2.5mm）

取り付けかた

1. 本体の防塵キャップを外す。

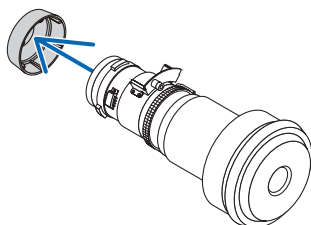
左上のツマミを外側に向けて押しながら、中央のツマミを引いて外してください。



2. レンズユニット後ろのレンズキャップを外す。

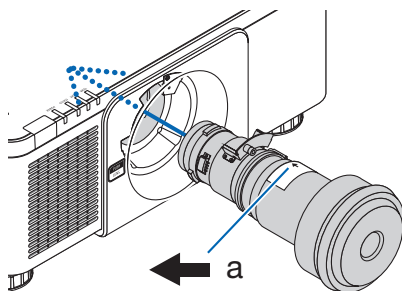
[注意]

- 後ろのレンズキャップは必ず取り外してください。後ろのレンズキャップを取り付けたまま本体に取り付けると故障の原因となります。



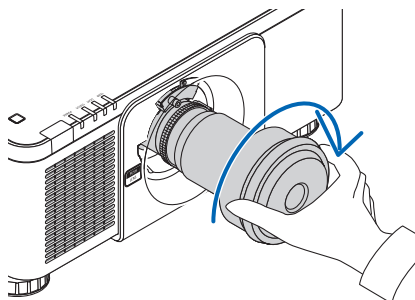
3. レンズユニットの矢印マーク㊦が印刷されているラベル面を上に向けて、プロジェクター本体に挿入する。

角度を維持したままゆっくり奥まで挿入してください。

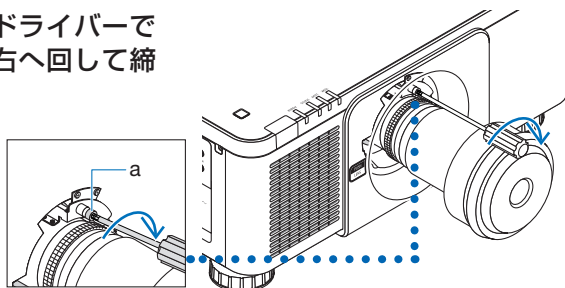


4. レンズユニットを右に回す。

カチッと音がするまで回します。
レンズユニットがプロジェクター本体に固定されます。



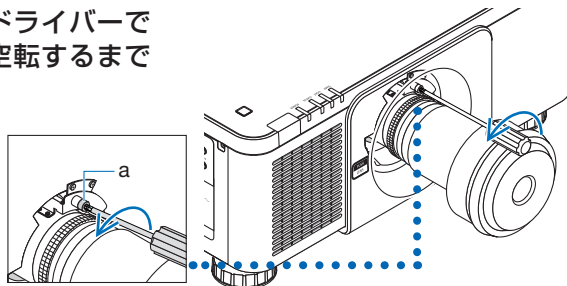
5. ボールポイント 6 角レンチドライバーで
レンズユニットのネジ③を右へ回して締
め付ける。



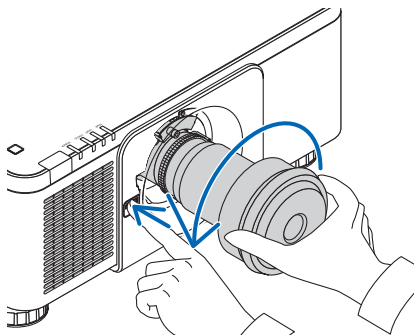
取り外しかた

- 準備：**1. プロジェクターの電源を入れ投写状態にしてください。
2. 本体の LENS CALIBRATION ボタンを押してください。
レンズ位置がホームポジションに戻ります。
3. 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
4. レンズにレンズキャップを取り付けてください。
5. しばらく待って、本体が十分に冷えたことを確認してください。

1. ボールポイント 6 角レンチドライバーで
レンズユニットのネジ③を空転するまで
左へ回してゆるめる。
ネジは外れません。

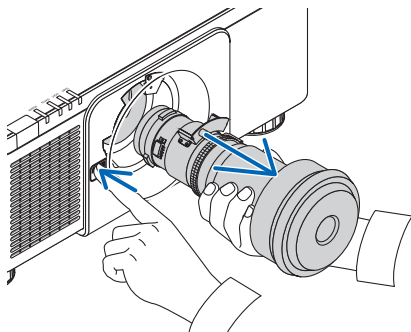


2. プロジェクター本体前面のレンズリリ
ース (LENS) ボタンを奥まで押し込みな
がら、レンズユニットを左に回す。
レンズユニットが外れます。

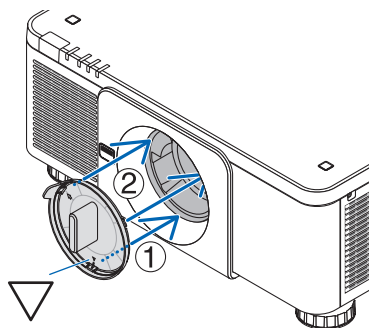


3. プロジェクター本体からレンズユニットをゆっくり引き出して、レンズリリース (LENS) ボタンを離す。

- ・ 外したレンズユニットは、レンズユニットに添付していた後ろ用のレンズキャップを取り付けてから保管してください。



- ・ レンズユニットを取り付けないときは、本体に添付の防塵キャップを取り付けてください。
▽印を下向きにして下部のツメを開口部に引っ掛けて（右図①）から、上部のツメを押し込んでください（右図②）。



アフターサービスについて

■ 製品の保証について

- この製品には保証書がついています。保証書は、販売店にて所定事項を記入してお渡ししますので、内容をよくお読みのうえ大切に保存してください。
- 保証期間は買いあげの日から3年間です。
本製品には有寿命部品（光学エンジン、光源ユニットなど）が含まれます。
有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境（温度、湿度など）の条件により異なります。
長時間連続使用など、ご使用状況によっては製品の保証期間内であっても有料での部品交換が必要になりますので、シャープサポートページ（裏表紙）をご確認ください。

■ 補修用性能部品について

当社は、本製品の補修用性能部品を製造打切後、8年間保有しています。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品のことです。

■ 修理を依頼されるときは

先に「故障かな？と思ったら」（→ [62](#) ページ）をお読みのうえ、もう一度お調べください。
それでも異常があるときは、使用をやめて、電源コードをコンセントから抜き、買いあげの販売店またはもよりのお客様ご相談窓口にご連絡ください。ご自分での修理はしないでください。たいへん危険です。

ご連絡していただきたい内容

品名	プロジェクター
形名	XP-X171Q-B XP-X141Q-B (取り付けている別売品があれば、その形名も連絡ください。)
買いあげ日	(年月日)
故障の状況	(できるだけ具体的に)
ご住所	
お名前	
電話番号	

次ページへ続く

保証期間中

保証書をご提示ください。保証書の規定に従って修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

アフターサービスについてわからないことは、お買いあげの販売店またはもよりのお客様
ご相談窓口にお問い合わせください。



使いかたのご相談など

弊社製品が接続されているシステムの使いかたなどは、ご購入の販売店・営業担当にお問い合わせください。

シャープサポートページ：

<https://jp.sharp/business/lcd-display/support/>

- 問い合わせフォームよりお問い合わせください。
- 「よくあるご質問」 もご活用ください。



修理のご相談など

【修理ご相談窓口】

シャープマーケティングジャパン株式会社



0570-00-5008 （・全国どこからでも一律料金でご利用いただけます。
・携帯電話からもご利用いただけます。）

受付時間 月曜～土曜：9:00～17:40（日曜・祝日など弊社休日は休ませていただきます。）

■ IP 電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は … **06-6794-9676**

■ 沖縄地区の方は … 沖縄シャープ電機株式会社 **098-861-0866**

受付時間 月曜～金曜：9:00～17:00（土曜・日曜・祝日など弊社休日は休ませていただきます。）

● 電話番号・受付時間などは変わることがあります。（2026.4）

シャープ株式会社

本社 〒541-8522 大阪府大阪市中央区久太郎町2丁目1番25号